

令和6年度

中英研會報

第83号

東京都中学校英語教育研究会

令和6年度 ― 行 動 目 標 ―

グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、国は小・中・高等学校を通じた英語教育全体の飛躍的な充実を企図し、社会からも大きな期待が寄せられている。学習指導要領（平成29年3月告示）では、令和2年度に小学校第3・4学年の外国語活動、第5・6学年の外国語科が開始され、令和3年4月には中学校学習指導要領が全面実施された。東京都中学校英語教育研究会は以下の行動目標の下、中学校英語教育を一層の充実・発展させ、持続発展する社会を支える人材を育成する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。

- (1) 都中英研の活動がより充実したものとなるよう、組織全体の見直しを継続的に行う。
- (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画できるようにする。集合型研修、オンライン研修や会議それぞれの利点を生かし、効果的、効率的な組織運営により教員の学びを充実させる。
- (3) 地区の幹事と連携を密にして、多くの優れた指導力や実践を広く共有する。

2. 人材の発掘とその育成に努める。

- (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層を育成する。英語教員全体の資質向上を図る。
- (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を企画・運営する。次世代の英語教員を育成する。
- (3) 授業研究を活発に推進する。個人として、英語教員として、組織の一員としての充実を目指す。個人の目標、組織の目標を互いに協力して達成し、地域や社会にも貢献する人材を育成する。

3. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を強化する。

- (1) 全学年で実施するスピーキングテスト（ESAT-J）を始めとする都の事業において、東京都教育委員会と連携して推進する。東京方式少人数・習熟度別指導を充実させ、生徒の英語力を高める。
- (2) 「東京都小学校外国語教育研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」他関連機関との連携を進め、小・中・高・大学等の学びを円滑に接続できるようにする。

4. 調査・研究の充実を図る。

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえながら、組織的な調査・研究を推進する。
- (2) 英語教育に関わる基礎的事項及び発展的事項等についての調査・研究活動を行う。
- (3) 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究活動を行う。特に小学校における外国語活動、外国語科との関連に留意した研究を充実するとともに、GIGAスクール構想による生徒一人1台端末を活用した授業について研究活動を行い授業改善に繋げる。
- (4) 生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための取組、特に英語「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」の評価に関する取組についての調査・研究を推進する。
- (5) 生徒や教員の考える力、総合的な英語力を高めるための生成AIの活用方法について研究する。

5. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。

- (1) 様々な広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
- (2) HP、SNS等の活用を図り、それらを通して各種情報の受信・発信を行う。
- (3) 各地区との連携を進め、情報の共有化と相互協力により新たな知を生み出す。

目 次

●小中高の連携や ICT、AI を活用、名作・名文に触れ 自らの学び方をつくる	平岡 栄一	1
●英語教育の喫緊の課題～言語活動の充実に向けて～	工藤 洋路	2
●東京都教育委員会の取組 生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための 授業力向上セミナーの実施	東京都教育庁指導部義務教育指導課	4
東京都教育庁グローバル人材育成部の取組		
①東京都における「グローバル人材育成」	国際教育企画課	6
②令和5年度 中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J) を活用した 学習改善・授業改善のための補助資料について	国際教育推進担当	9
③都立高校生、教員等の海外派遣研修等について	国際交流教育課	11
④都立高校生向け英語を使う機会の提供について	国際教育事業担当	13
●東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について	下鶴 文恵	14
●実践研究		
(1) 英語学芸大会 Play の部 第1位 九段版 Cinderella 完成までの道のり	石上新太郎	16
(2) 英語学芸大会 Speaking の部 A 第1位 後世に受け継ぐべき日本文化	林田 奈美	17
(3) 研究部 令和5年度研究発表について	高杉 達也	18
(4) 東京教師道場を終えて－修了者支援制度を利用した授業改善－	木村 浩隆	19
(5) 第47回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 第5分科会 東京都代表発表報告	板垣 繁・田島 大介	20
●各部報告		
・総務部報告	板垣 繁	22
・事業部報告	稲葉 高広	23
・調査部報告	荒川 高広	24
・研究部報告	橋本 晋作・森沢 俊彦	25
・プロジェクトチーム部報告	飯沼美千代	26
・出版部報告	今本由美子	26
●研究大会報告		
・大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会（北九州大会）	赤田 洋一	27
・全国英語教育研究団体連合会総会（全英連 埼玉大会）	難波 浩明	28
・関東甲信地区中学校英語教育研究会連絡協議会（千葉大会）	板垣 繁	29
●各地区の活動状況		31
●中英研事業報告		57
●中英研会則		58
●名簿		60
●あとがき		64

小中高大の連携やICT、AIを活用、名作・名文に触れ 自らの学び方をつくる

会 長 平岡 栄一
(葛飾区立常盤中学校)

平素より、東京都中学校英語教育研究会(都中英研)の活動へのご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。多くの皆様の御指導、御助言、御尽力をいただき、おかげさまで令和6年度も充実した研究や実践が展開されました。

今年度の活動は対面で開催しつつ、一部オンラインも活用しました。主な事業では、6月に定期総会、「感謝する会」、第1回事業部「若手英語科教員お悩み相談会」、8月に研究部、事業部、調査部、プロジェクトチーム(PT部)による合計5回のワークショップ(参加合計382名)、10月に第63回大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会(北九州大会・オンライン開催)、第39回事業部「授業力アップ研修会」、11月に第48回関東甲信地区中学校英語教育研究協議大会(関プロ千葉大会)、第74回全国英語教育研究大会(全英連埼玉大会)、「都中英研だより第78号」発行、2月に研究部の公開授業・研究発表で「語いと英語教育(47)」発行、第40回事業部「授業力アップ研修会」、PT部研究授業・冬季研修会、3月には「令和6年度 中英研会報 第83号」が発行されます。また英語学芸大会は、11月に第77回英語学芸大会(オンライン開催・各校最大13エントリーまで)、12月に第77回英語学芸大会(集合開催・各地区1エントリー)が実施されました。

さて、今年度初めに掲げた3つの重点目標について少し振り返ります。①『ESAT-Jや東京方式少人数・習熟度別指導において東京都教育委員会と連携して授業改善を図る』ですが、中学校の授業で学んだ英語で「どのくらい話せるようになったか」を測るESAT-Jへの各校での工夫された取組が授業改善につながり生徒の英語によるパフォーマンスは大きく向上しています。

②『「東京都小学校外国語教育研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」他関連機関、Global Education Network 20指定校や、東京都立高等学校英語教育研究推進校との連携を進め、小・中・高・大学等の学びを円滑に接続できるようにする』についてですが、ある小学校の研究授業では、児童がとてもリラックスして楽しそうに英語でコミュニケーションをしていました。情報量も多く、必要な形容詞や固有名詞もたくさん使われていて、自分の言葉で語り、分かりやすく、会話が弾んでいました。このような児童を中高大の良い授業で引き続き順調に育成します。高校との連携では、令和9年度の第77回全国英語教育研究大会(全英連東京大会)で本会と全英連(東京都では高校が運営の中心である)で密接に連携して得られた成果を発表する計画です。また事業部では、小中高大の連携や若手教員の育成に焦点を当てるなどの動きも見られており、「都中英研だより」第78号に記した「小・中・高・大の効果的な連携から教員養成や教員育成にシームレスに繋げる試み」を本格的に推進したいところです。

③『「個別最適な学び」、「協働的な学び」が共に充実し、将来の第一級の英語力に確実につながる効果的な授業等が東京都全体で展開されるように対話や協働をする』については、ICTやAIを効果的に活用しつつ、手書きで美しい文字を書く、発声や発音の指導、世界の名作や名文、簡潔明瞭、気持ちが伝わる等の優れた文章等に多く学び、自らの琴線に触れる文体や表現、語彙を制限なく取り入れ、教師も生徒も対話や協働で表現力を大きく拡大したいです。

さて、皆様にとってどのような一年間でしたか。都中英研の皆様におかれましては、各自のすべきこと、また実現したいこと等を互いの協力により、ゆったりとした温かい気持ちで堂々と達成し、組織の一員として、また個人としても充実した日々を今後もお送りいただけたらと願います。都中英研の研修はこれからも皆様と共に楽しみながら創ります。研修に参加することも、計画することともとても楽しいです。一緒に学ぶのはもっと楽しいです。

英語教育の喫緊の課題～言語活動の充実に向けて～

玉川大学文学部英語教育学科 教授 工藤 洋路

本稿では、私が中学校の英語の授業を参観している中で、喫緊の課題と捉えていることを論じる。令和5年度の「英語教育実施状況調査」によれば、中学校では75.1%の学校が、授業の半分以上の時間、言語活動を行っている（東京都に限定すると80%程度）。この調査は、各学校の英語教師が質問紙調査に回答する形式で行われたが、言語活動が授業時間全体に占める割合を回答する際、多くの教師は自身の授業実践を振り返って、おおよそ何パーセントが言語活動だったかを回答したと思われる。授業を振り返る際、例えば、「今日の授業は、教科書の話すことの活動を行ったが、大体15分くらいだったな」といったように何となく自分の記憶から割合を算出して答えたケースもあれば、授業の記録を取っている場合は、その記録から時間を確認して割合を計算したケースもあるだろう。いずれにせよ、自身が「言語活動」と捉えている範囲を割合として算出したと思われる。

ただ、この場合、1つの疑問が浮かぶ。それは、生徒が実際に英語を使っている時間である。例えば、「教科書の話すことの活動を15分行った」といった場合、この15分の中に、教師からの指示を聞く時間、教科書の説明やモデル文を読む時間、ペアを組む時間、ペアを組むために席を移動したり机を動かしたりする時間、ワークシートを受け取って必要なことを書き込む時間、振り返りシートに記入する時間など、生徒が実際に話す時間以外が多く含まれている。私が参観したある授業では、先生がLet's move on to a speaking activity.と言ってから、実際に生徒が英語を話すまで10分以上を要し、また、実際に話した時間は、生徒1人当たり20秒にも満たなかったものがあつた。これは極端な事例かもしれないが、実際に生徒が言語活動に取り組む時間は思っているより短いのではないだろうか。特に、昨今は、生徒が個々にタブレットを持っているため、タブレット上で、あらかじめ作った発表のスライドを開いて表示したり、話す様子を撮影するためにビデオを立ち上げたりするなど、実際に話す場面の前後に、少なからず時間を要することを行っている授業が多い。話すことをはじめとする様々な活動の際に使用できるフリーのツールやアプリも多く存在する。私が参観した別の授業では、インターネット上にあるフリーのアプリにタブレット端末からアクセスさせて、クラスの全生徒がそれを使用できる状態になるまでに相当な時間を要した結果、授業の終了時刻になってしまい、「じゃあ、次の授業にそれを使って活動をしよう」と教師が言って授業が終わった。このように、言語活動が重視され、その中でICTの活用も推し進められている現状において、言語活動を充実させようという意識をもって様々な言語活動を実施している中でも、実際に生徒が英語を使う時間が意外にも確保できていない現状があるのではないだろうか。

「英語教育実施状況調査」の中で、ICTの活用の割合と、生徒の英語による言語活動の割合の関係性を調査しているが、その関係性はあまり強くない。ICTの活用の割合の高さ（低さ）と、言語活動の実施の多さ（少なさ）に強い関連性はないということである。具体的には、次の図で示されているとおり、「ICTの活用（生徒が1人1台端末・パソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動）」と「生徒の英語に

よる言語活動」の相関係数は0.34であったことから、この両者にそれほど強い関係性はない。この結果から、今の言語活動の実施方法やICTの活用方法を用いている限りは、ICTの活用を増やしたからといって、言語活動が充実していくわけではないことが推察される。上で論じたとおり、ICTを活用しようとする、タブレットの操作やそれに伴う教師の説明や指示などが多くなり、生徒が実際に取り組む言語活動が増えていくわけではない。この課題を解決するためには、まずはツールやアプリはすぐに使えるものにする、そして、やり取りであればペアやグループ作りに時間をかけずにすぐに実際に話す体制を作ること、また、指示や説明に時間を要するような設定が複雑な活動は避けることなどが求められる。

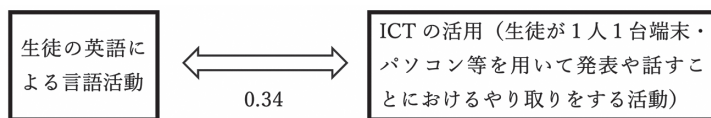


図. 言語活動とICTの活用の関係性（「令和5年度英語教育実施状況調査」より）

生徒が実際に言語活動に取り組む時間を確保できるようになったら（つまり、英語を使う量が増えるようになったら）、次はその質を向上させたい。質を向上させるというのは、例えば、英語を話す活動であれば、「①言いたいことを考える⇒②頭の中で英文を作る⇒③音声化する」というプロセスをしっかりと辿らせる活動をするということである。参観する授業でよく見かけるのが、ワークシートに使うべき英文のフレーム（例：I want to become _____ in the future.）が記載されており、話す活動であるのに、生徒はこの英文を見ながら話しているケースである。確かに、下線部については内容を自分で考えてそれを英語にするという過程を経ているが、文全体からするとほんの一部に対してそれを行っているだけなので、結局は、書かれたものを読み上げている活動、つまり、上の③のプロセスを重点的に行っている活動になってしまう。最初はフレームを見ながらでしか話せないと思われるかもしれないが、事前に文字を見ないで先生とともに練習する時間を十分取れば、多くの生徒は、少なくともターゲットの文については、文字を見ないで話せるようになる。あるいは、最初はシートを見ながら話すことを許容して、徐々にその英文を見ないようにするために、シートを持たないで行わせたり、相手の言ったことをメモするためにシートが必要なら、自身が話す箇所は折り曲げて見えないようにしたり（そうできるようにシートを作成する）するなど、教師が少し工夫することで、上のプロセスを辿る活動の実施が可能になる。あるいは、シートを無理に作らずに、黒板やディスプレイにフレームを提示しておき、もし、活動中に多くの生徒がそれを見ながら行っているのであれば、事前の練習が不足しているということである。その場合は、いったん活動を止めて、全体で練習をした後に、再度のその活動に取り組ませればよい。これは、あくまでワークシートを用いた話すこと〔やり取り〕の活動に関わる教師の工夫の例であるが、他の領域や技能の活動においても、生徒が教師や教材の支援がない中で実際にそれを行うときに辿るはずのプロセスを想定して、授業では、そのプロセスを少しずつ進みながら、英語を実際に使うことができるようにしていくことが大切である。このような教師の工夫がなければ、言語活動の時間が増えたとしても（一見、生徒がたくさん英語を使っているようでも）、生徒が取り組んでいることの質がなかなか向上しないため、英語力の向上が見込めない。

本稿では、私が参観した授業の実例をもとに、言語活動とそれに関わるICTの活用に関して、現在の英語の授業の課題だと思われる点を論じた。今後、言語活動の充実とICTの活用をどのように関連させていくと生徒の英語力向上に繋がるかを引き続き考えていきたい。

生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための 授業力向上セミナーの実施

東京都教育庁指導部義務教育指導課

義務教育指導課では、昨年度に引き続き、中学校の授業改善に向けた取組として「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための授業力向上セミナー」を開催した。本セミナーは、学習指導要領で求められる「言語活動」を主軸とした指導について、指導教諭等が実践した授業の映像の視聴や実践発表等から、授業の工夫点等を学ぶとともに、受講者同士による協議等を通じてその学びを深めていくなど、実践的な内容で構成している。

本稿においては、今年度実施した全2回のうち、発表した先生方の実践等を紹介する。

第1回：「生徒が伝えたい内容を思い浮かべ自分の言葉で伝えていくためには」

1 授業公開（授業者による解説、7月に実施した第3学年授業映像の視聴）

福生市立福生第一中学校 指導教諭 寺沢 陽子 先生

○「生徒が発信（「書くこと」）する」ための指導の工夫について

㊦ 単元のゴールを生徒と共有するとともに、単元のゴールに向けた各時間の学習活動を確認できるように「振り返りカード」を工夫することで、生徒が単元の見通しをもてるようにしている。

㊦ 「書くこと」の指導に関する工夫として、単元のゴールに「書く」活動を設定するとともに、ゴールに向けて単元の1時間1時間に小刻みな「書く」活動を設定している。その中で、書く内容と使用する言語材料が示されている「条件指定」作文と、書くトピックのみが示され具体的な内容は生徒自身が考える「トピック指定」作文を織り混ぜて単元を計画している。

㊦ 掲示板アプリを活用し、生徒が書いた英文の「共有」、「他者参照（表現内容の改善のため他の生徒の英文等を参照すること）」をさせ、生徒同士の学び合いを促している。

○今後の授業改善に向けて

㊦ 教科書の扱いについて、単元のゴールや単元で身に付けさせたい資質・能力を踏まえて、教科書をどう扱うかを考えるべきである。その中で、教科書の扱い方に緩急をつけることも考えられる。

㊦ 単元を通して扱う一つ一つの言語活動が、その単元で身に付けさせたい力を育成するための活動になっているかということが重要である。一つ一つの活動がゴールに結び付いているか常に意識することが大切である。

2 指導事例紹介

(1)「生徒が伝えたい内容を思い浮かべ自分の言葉で伝えていくためには」

中野区立中野東中学校 指導教諭 井上 智絵 先生

㊦ 生徒が「何を書けばいいのかわからない」状況の時には、①コミュニケーションの目的・場面・状況を具体的に設定することで、誰に、何を伝えるのかを具体的にイメージできるようにすること、②具体例を挙げたり、生徒同士で知っていることを共有させたりして、書く内容に関する背景知識の活性化を図ることを実践している。

(2)「教材解釈に基づく単元指導計画の考え方」

国分寺市立第五中学校 主幹教諭 前川 卓哉 先生

㊦ 「日常的な話題」を扱う場合は、言語活動に活用できる表現を確認したり、重要な情報を見付けたりすることに留めるなど、教科書を簡潔に扱っている。

㊦ 「社会的な話題」を扱う場合は、教科書の内容を生徒自身の意見形成の土台として活用するため、教科書の十分な内容理解を経た上でアウトプットの活動につなげている。

3 まとめ 葛飾区立常盤中学校 校長 平岡 栄一 先生

参加された先生方が本セミナーを大変前向きに受講し、活発に協議を行っていた。授業公開や指導事例紹介の内容を各学校にもち帰り、他の英語科教員と共有するとともに、本セミナーでの学びを自校の生徒の実態に応じて工夫して活用していただきたい。

第2回：「目的・場面・状況に応じた発信につなげる教科書本文の効果的な読み取らせ方」

1 授業公開（授業者による解説、10月に実施した第2学年授業映像の視聴）

板橋区立板橋第二中学校 主幹教諭 河野 光志 先生

○教科書本文を扱う際の「読むこと」の指導

㊦ 発信につながる目的・場面・状況を設定し、発信することを目的に読む活動に取り組みせることで、生徒がなぜ読むのかを常に考える習慣を身に付け、目的に応じた「読み方」ができるようにしている。

㊦ 教科書本文で扱われているテーマや英文の形式、同様の目的・場面・状況を使いながら、指導した「読み方」の定着を目指した練習として、教科書で扱った英文に類似した異なる英文を生成AIを用いて作成し、初見で読ませている。

○日常の指導の中で意識していること

㊦ 単元の最初に単元の最後で目標とするコミュニケーションの目的・場面・状況のみを提示して単元で学習する前の生徒の力で言語活動に取り組みさせ、うまくいかない体験をさせることで、よりよいパフォーマンスのためにはどのような表現が必要かを生徒に考えさせるようにしている。単元を通じて繰り返し、生徒の表現内容等を改善するための指導を行い、それを全体で共有していくことで、生徒に更なる気付きを与え、表現内容の質が高まっていくようにしている。

2 指導事例紹介

(1)「読むことにおける効果的な指導の工夫」

渋谷区立松濤中学校 主幹教諭 橋本 晋作 先生

㊦ 自立した学習者の育成に向け、未知の単語や文法の意味を前後の文脈から予想させる推測読みや、自分の考えを伝えたり質問したりすることを通じた情報の共有などに取り組みさせながら、生徒が分からないことへの耐性を身に付け、試行錯誤しながら解決する経験を積めるようにしている。生徒が失敗しないように教師が全てのレールを敷く指導からの脱却が必要である。

(2)「シームレスな言語活動の工夫」

小平市立上水中学校 主任教諭 坪田 裕希 先生

㊦ 教科書を効果的に活用した指導を進めるために、教科書の各パートで本文を活用した言語活動（自己表現活動）を積み重ねることで、単元末でまとまりのある内容を表現できるようにしている。各パートでの言語活動と単元末の言語活動につながりをもたせ、単元を通して一貫性のあるシームレスな指導を進めている。

3 指導・講評

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 賛田 悠 学力調査官

- ・「読むこと」を通じて生徒の「思考力、判断力、表現力等」を育成するためには、取り出した情報を精査し、必要な情報と不要な情報を分ける等、判断の基となる目的や場面、状況などの設定が必要である。
- ・言語活動を行う際には、目的と活動内容が同じ（例えば、「スピーチをするため（目的）に、〇〇についてまとまりのある内容を話す（活動内容）ことができる。」など）にならないようにする。
- ・全国学力・学習状況調査の問題は、学習指導要領の目標に基づいて作成している。授業改善に向け、報告書の内容を改めて御覧いただくとともに、報告書に記載されている「授業アイデア例」等を活用してもらいたい。

令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校 英語

https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23meng_k.pdf



外国語科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて

第2回セミナーで配布した資料、「外国語科における『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実に向けて」を「義務教育指導課ポータルサイト」の「外国語教育」のページに掲載している。

第2回セミナーでは、本資料を基に、冒頭の東京都教育委員会の挨拶の中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた指導のポイントを伝えた。

- ICTを活用することを目的とせず、「コミュニケーションを図る資質・能力を育成する」という趣旨の下、「言語活動」や「目的や場面、状況等」といったキーワードを大切にしながら「個別」と「協働」を取り入れながら指導する。
- 生成AIを活用した指導については、国から暫定的なガイドライン等が出ており、「生成AIの利活用に関する懸念等に十分な対策を講じられる学校でパイロット的に取り組むことが適当」とされている。これらを踏まえつつ、先生方が新しい技術を取り入れて使ってみるところから始めてみてもらいたい。

外国語科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて

本資料は、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果に基づき、外国語科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、指導のポイントをまとめたものです。

令和5年12月 東京都教育委員会

義務教育指導課ポータルサイト 外国語教育

<https://www.gimukyoikushidoka.metro.tokyo.lg.jp/>



※ 学校関係者ページの閲覧に必要なユーザー名（ID）、パスワードは、区市町村教育委員会を通じて各学校に通知しています。

担当：指導部主任指導主事 窪田 香
義務教育指導課統括指導主事 早川 裕之
義務教育指導課指導主事 鈴木 悠平

東京都における「グローバル人材育成」

東京都教育庁グローバル人材育成部 国際教育企画課長 軽部 智之

1 東京都が目指すグローバル人材育成

現在、様々な分野でグローバル化が進展している中、多様な人々が共生し、互いを認め合う東京の実現に向けて、これからの時代を生きる子供たちには、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と協力・協働しながら課題を解決する力が求められる。また、多くの外国の人々と交流する機会が増えていく中、自らすすんで積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や豊かな国際感覚を醸成する必要がある。

東京都教育委員会は、グローバル人材育成の目標の設定とその目標達成への手段を明確にした「東京グローバル人材育成計画'20 (Tokyo Global STAGE'20)」(平成30年2月)を踏まえ、令和4年3月、都内公立学校において、グローバル人材育成に向けた取組を推進していくためのガイドラインとなる「東京グローバル人材育成指針」を策定した。

2 「東京グローバル人材育成指針」

■主な内容

- 学校において学習・教育活動を進める上での考え方
 - 小・中・高等学校を通して育成したい資質・能力
 - 期待される子供たちの姿(資質・能力)
 - グローバル人材育成の視点からの教科横断的な取組例
 - 中学校英語スピーキングテストやTOKYO ENGLISH CHANNEL(※)など、授業等で活用できる東京都の施策
- ※ TOKYO ENGLISH CHANNEL: 小学生から高校生までが英語を自学・自習することができるウェブサイト。動画とオンラインイベントの2つの要素で構成。

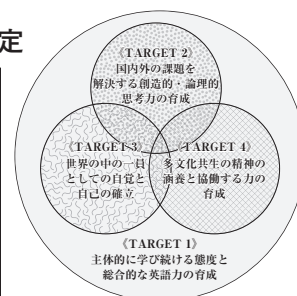


小・中・高等学校を通して育成すべき資質・能力を4つのTARGETとして設定し、主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成を基盤としながら、各TARGETを相互に連携させた教育を推進していくことを目指している。

3 4つのTARGETによる東京型グローバル人材育成モデルの設定

■4つのTARGET

- 【TARGET 1】主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成
- 【TARGET 2】国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成
- 【TARGET 3】世界の中の一員としての自覚と自己の確立
- 【TARGET 4】多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成



【4つのTARGETのイメージ図】

図で示す最も大きいサークルTARGET 1「英語力・主体性」を基盤として、TARGET 2「創造性、論理力、思考力」、TARGET 3「自己の確立」、そしてTARGET 4「多文化共生」を育成する。

TARGETを育成するためのアプローチとして、まずは学校での取組がある。学校での取組をさらに充実させるために、東京都教育委員会のグローバル人材育成の施策を学校との取組と関連させてグローバル人材を育成していく体系が、「東京型グローバル人材育成モデル」である。

小学校から高等学校まで一貫して4つのTARGETの育成を目指し、「世界を視野に新しい時代を切り拓く人材の育成」を推進していく。

4 グローバル人材育成部の設立

本部では、世界で活躍するグローバル人材の育成に向けて、4つのTARGETの育成に係る様々な施策を実施し、小中高を通じた英語教育と国際理解教育を推進している。

課	担当	主な事業
国際教育企画	国際教育企画	<ul style="list-style-type: none"> ●国際教育企画・調整 ●JET・ALT配置 ●MOU（教育に関する協定締結） ●Tokyo Global Student Naviの活用促進 ●施策の成果検証
	国際教育推進	<ul style="list-style-type: none"> ●オンライン英会話の実施 ●英語資格検定試験受験支援 ●英語スピーキングテスト（ESAT-J）の実施 ●指定校（GE-NET20・英語教育研究推進校） ●教員の英語力向上事業
	日本語指導	<ul style="list-style-type: none"> ●「日本語指導推進ガイドライン」及び児童・生徒用テキスト・動画等の活用促進 ●アセスメントの実施・実施支援 ●春期・土曜日本語講座の実施
国際交流教育	国際交流教育	<ul style="list-style-type: none"> ●都立高校生等の海外派遣事業 ●海外留学生受入事業（東京体験スクール） ●教員海外派遣研修 ●海外学校間交流推進校
	国際教育事業	<ul style="list-style-type: none"> ●TOKYO ENGLISH CHANNEL ●TOKYO GLOBAL GATEWAY ●TEP-CUP（東京都高等学校英語プレゼンテーションコンテスト） ●英語でジョブチャレンジ

いつでも、どこでも、誰でも、生きた英語に触れられる、東京都教育委員会の外国語教育・国際理解教育に関するポータルサイト「Tokyo GLOBAL Student Navi」で、各事業に係る情報を掲載している。

<https://global-navi.metro.tokyo.lg.jp/>



次頁より、東京都教育委員会の令和6年度のグローバル人材育成に関する主な取組を紹介する。

中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)を活用した 学習改善・授業改善のための補助資料について

東京都教育庁グローバル人材育成部 国際教育推進担当課長 宮崎 智

東京都教育委員会は、小・中・高を通じた英語教育や国際教育に関する施策を重層的に展開し、世界で活躍することができる人材の育成に向けた取組を推進しており、その取組の一環として、中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）を実施している。

本事業は、生徒が中学校の授業で学んだ内容の定着を確認し、次の目標設定や学習改善に役立てること、義務教育での学びを高校の学びにつなげることを目的としている。

そのため、東京都教育委員会では、ESAT-Jを生徒の学習改善や先生方の授業改善に活用できるよう、事業者と連携し、次の2点の補助資料を作成した。

■令和5年度 ESAT-J YEAR 1 及び ESAT-J YEAR 2 採点結果報告書

本報告書では、令和5年度 ESAT-J YEAR 1 及び ESAT-J YEAR 2 の採点基準と問題と共に、実際の解答例や評価とその理由、授業改善に向けたアドバイス等を紹介している。解答例は実際の解答音声を参考に作成しており、聞こえた音声のまま、文字に書き起こしている。実際の採点では、各採点者は単純に誤りを減点するのではなく、採点基準に基づき、受験者の「できていること」をプラスに評価している。

また、先生方が「話すこと」の力を高めるための指導を行う際の参考となるよう、解答例から見える傾向や採点者からのコメントを記載している。

右はESAT-J YEAR 1 のPart C「イラストを英語で説明する」である。イラストの内容を描写する上で重要な六つのポイントについて、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて適切に描写できているかを、「コミュニケーションの達成度」「言語使用」「音声」の三つの観点で評価している。

Part C

<問題指示文>
Part C は、1枚のイラストについて説明する問題で、1問あります。どこに、何が見えますか。できるだけ多く解答してください。



本報告書で掲載されている六つの解答例のうちの一つを紹介する。

<p>"The book under bed. The cat on the bed. The basketball on the chair. The chair under the basketball. The banana on the table. The flower in the pot. The picture ... the picture next to the bed. The chair next to the table."</p>	<p>A1.1</p>	<ul style="list-style-type: none">・イラストの内容を描写する上で重要なポイント（「何が」、「どこに」あるか）のうち、少なくとも三つを適切に描写しています。・平易な文を使おうとしていますが、誤りが多く見られません。・文法と語彙に基礎的な誤りが多く、聞き手にとって分かりにくいところがあります（動詞の欠落、不正確な複数名詞）。・"The chair <i>under</i> the basketball"では意味が適切に伝わりません。前置詞の使い方に問題があります。"The basketball is on the chair."が適切な表現です。・この受験生が be 動詞を使っていれば（例：The cat <i>is</i> on the bed. The bananas <i>are</i> on the table. ）、より良い評価になっていたでしょう。
---	-------------	--

5 指導者の皆さんへ（ブリティッシュ・カウンシル 採点チームより）

- ・イラストの中にあるものを全て描写するように促してください。
- ・受験生がイラストを描写する際に、「主語＋動詞＋場所を表す前置詞句（例：The cat is on the bed.）」という形が使えるように練習するとよいでしょう。
- ・受験生が動詞を使って文の形で表現できるようにしてください。動詞を使うことで、より正しく相手に伝えることができます。
- ・物の位置を伝える際には、通常、大きいものよりも、小さいものに焦点を当てて表現します。例えば、“The chair is under the basketball.”より、“The basketball is on the chair.”の方が自然です。同様に、“The cat is on the bed.”の方が“The bed is under the cat.”より自然です。このような点に気を付けることで、より分かりやすいコミュニケーションにつながります。

本報告書に関連し、CEFR-J各レベルの解答例（声優によるモデル音声）を確認できる採点結果解説動画を作成し公開している。ぜひ視聴していただき、授業の更なる改善の一助としてほしい。



■ ESAT-J YEAR 3 サンプル問題の各パートにおける解答例

本資料では、ESAT-J YEAR 3 のサンプル問題の各パートにおける解答例と、各解答の採点結果及び採点のポイントを紹介している。



本資料も、前述の採点報告書と同様に、実際の解答音声を参考に作成しているため、解答例には誤りのある文や語句を含んでいるが、実際の採点では、誤りを減点するのではなく、採点基準に基づき、「できていること」をプラスに評価しているので、そのまま掲載している。

生徒には、自分の解答と解答例を比較し、「よりよく相手に伝えるためには、どのようなことに気を付け、授業で学んだ表現をどのように使えばよいか」などを考え、英語力向上のための参考にしてほしい。先生方には、各パートにおける解答例を生徒と共有し、生徒が内容面や言語面でモデルとなる多様な表現を学んだり、適切な表現を確認したりするための教材として活用してほしい。

右はPart D「自分の意見を述べる」である。コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、アイデア（三つのヒント、又は自分自身の考えアイデア）のいずれか一つを基に、効果的な理由や例などを加え、明確な意見を述べているかを、「コミュニケーションの達成度」「言語使用」「音声」の三つの観点で評価している。

本資料で掲載されている六つの解答例と採点のポイントのうち、一つを紹介する。

あなたの意見を、理由と例を加えて詳しく述べてください。あなたの意見として、三つのヒントから一つ選ぶか、又は、あなた自身の考えを述べても構いません。日本の地名や人名などを使う場合には、それを知らない人に分かるように説明してください。

How can we improve our English?

Ideas

- movies
- books
- the Internet

or your own idea

<p>A1.3</p>	<p>My opinion is we can ... improve our English by books. I think books is very important.</p> <p>Books er, books are.. very nice. And my idea is the Internet and movies are ... hard so my idea is good.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の意見とその理由を述べている。 • 文法と語彙に多少の誤りがあるがあるが、聞き手が十分に理解できる。 • 発音などがおおむね適切である。
--------------------	--	--

今後も、問題や一つの解答例だけでなく、生徒の学習改善や先生方の授業改善のヒントとなるような情報を発信していく。より多くの学校で活用してほしい。

都立高校生、教員等の海外派遣研修等について

東京都教育庁グローバル人材育成部 国際交流教育課長 鈴木 基成

1 東京都教育委員会の国際交流・「生徒の海外派遣研修」に関する取組

本事業では、学校での学びを現地ならではの経験を通じて実践的に深められるよう、現地教育機関や大使館等と連携し、1週間程度の都立高校生等を対象とした東京都教育委員会独自の海外派遣研修プログラムを企画・実施している。

令和6年度は、これまで交流機会の少なかった国・地域等、10か国に約270名の生徒を派遣した。

都立高校生のグローバルマインドセットの育成を強力に推進するため、全ての都立高校等において、「異文化理解など世界的な視野を獲得する海外派遣研修」や「生徒の将来のキャリアを意識した実践的な海外派遣研修」など、様々な交流機会を提供することを目的に以下のプログラムを実施した。

海外派遣研修に参加した生徒は、帰国後、参加していない生徒にも成果を広く還元するため、参加校や東京都教育委員会主催の成果報告会で、成果発表を行っている。

(1) ジェネラルプログラム

～世界の高校生等との交流や異なる文化に触れる体験を通じた「多文化共生社会の実現に向けた意識の醸成」～

【派遣先国】インドネシア、マレーシア、ヨルダン、トルコ、エジプト、フランス

(2) スペシャライズドプログラム

～学術・スポーツ・技術分野における海外の先進事例への関わりを通じた「自己の可能性の追求」と「キャリア形成」への動機付け～

【派遣先国】アメリカ、フィンランド、アラブ首長国連邦、イギリス、フランス



大学生との交流



高校での文化交流



同世代による交流



日系企業訪問



小学生への文化紹介

2 都立高等学校等における留学生の受入事業「東京体験スクール」の取組

東京都教育委員会は、より多くの都立高等学校等において、在籍する生徒が日本にしながら国際交流機会を得られ、国際理解を深めることができるよう、海外からの留学生の受入拡大を推進している。令和6年度は9か国から合計70名の留学生を1週間都立高校等で受け入れた。

3 「海外学校間交流推進校」の取組

東京都教育委員会は、グローバル人材育成の一層の促進を図るため、姉妹校交流をはじめとした、海外の高校等との交流活動を積極的に推進する学校を「海外学校間交流推進校」として指定し、交流活動に必要な教育環境の整備等の支援を行っている。

4 教員等の海外派遣研修

令和6年度は、以下の二つのプログラムを実施し、成果報告会には、海外派遣研修に参加した教員だけでなく、国際交流等に関心の高い先生方にも参加いただいた。令和7年度についても、多くの区市町村の教員からの応募を期待している。

(1) 英語教育推進プログラム（約90名派遣）

都内公立中学校及び高等学校等の「外国語（英語）科教員」を、英語を母語又は公用語とする国へ1か月程度派遣（R6：オーストラリア）し、大学等の高等教育機関が運営する英語教授法に係る講義等の受講、最新の教授法の修得、派遣先国の文化理解を深めることなどを通して、派遣教員の指導力を向上させ、都内公立学校の生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上に資することを目的としている。派遣前後には、オンデマンド型研修・成果報告も合わせて行った。

(2) グローバル教育推進プログラム【新規コース】（約50名派遣）

担当する教科を問わず東京都公立学校教員（管理職・指導主事等を含む）を対象として、英語を母語又は公用語とする国へ1週間程度派遣（R6：シンガポール）し、大学等の高等教育機関の訪問や現地教育機関への視察を通して、海外の教育事情・国際交流・多文化共生への理解を深め、自校や地域での教育活動へ応用する力を身に付けさせるなど、グローバル教育を推進する教員を育成することを目的としている。

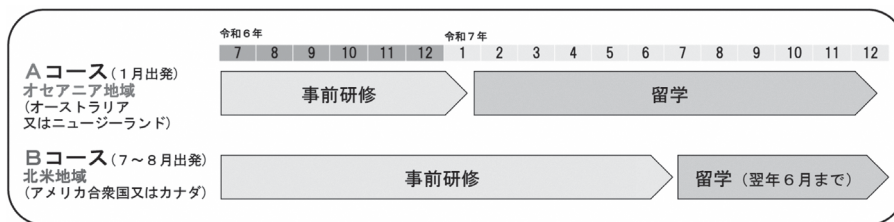
5 次世代リーダー育成道場

(1) 事業の目的・ねらい

次世代リーダー育成道場は、グローバル化が進む中、将来、様々な場面や分野で活躍し、日本や東京の未来を担う次代のリーダーを輩出するため、都立高校生等を対象とした海外留学支援事業である。事前研修、約11か月間の海外留学、事後研修を通して、海外で通用する英語力や広い視野、世界に飛び出すチャレンジ精神、課題解決能力等を育成することを目的としている。

(2) プログラムの概要

プログラムは(1)事前研修、(2)留学、(3)事後研修、で構成され、留学の開始時期により、AとBの二つのコースを設定している。次の表は、令和6年から令和7年にかけてのスケジュールである。



6 令和6年度研究開発委員会「使える英語」部会（小・中・高等学校）

「使える英語力」を「目的や場面、状況などに応じて、相手に配慮しながら、主体的に英語でコミュニケーションを図り、情報や事実、考え、気持ちを伝え合うことのできる力」と設定し、小・中・高校の接続を意識したパフォーマンステストを研究した。本研究では、スピーチにおけるテーマ設定、ループリック及び評価例を示すとともに、授業で実践しやすいパフォーマンステストを提示する。これにより、小学校から高校卒業までを見通した児童・生徒の英語力向上を目指す。

都立高校生向け英語を使う機会の提供について

東京都教育庁グローバル人材育成部 国際教育事業担当課長 井上 智美

1 英語を使う機会の提供について

東京都教育委員会は、英語で話す機会を通して、英語力を高める「HOP」、日本にしながら海外の同世代の人々と交流し、国際感覚を培う「STEP」、海外での直接体験を通して、多文化共生の精神を涵養する「JUMP」の取組を通じて、世界で活躍できる人材の育成を推進している。

今回は、令和6年度の「HOP」の取組として以下に三点紹介する。

2 TGGサマーキャンプ（TGGを活用した1泊2日の英語漬け体験）

都立高校生を対象として、海外に行かなくても「英語漬け」の環境を体験することで使える英語力を育成するため、海外留学で必要となる場面を疑似体験できる1泊2日の宿泊プログラムを令和5年度から実施している。

今年度は江東区青海のTGG BLUE OCEANに加えて、立川市のTGG GREEN SPRINGSで実施し、約340人の生徒が参加した。参加生徒からは「間違いを気にせずに英語を話してみようとした」「簡単な単語やジェスチャー、表情を使えば伝えることができると学べた。英語の勉強に沢山挑戦していきたい」等の声があり、主体的に英語を学ぶ契機としている。



夕方プログラム

3 英語でジョブチャレンジ（英語を使う職場で仕事体験）

都立高校生を対象として、英語を実践的に活用する機会やキャリアプランについて考える契機として、外国公的機関、外資系企業など日常的に英語を使用する企業・団体等で仕事体験を行う取組を今年度から実施している。21企業・団体で約140名の生徒が仕事体験を行った。参加生徒からは「将来の新しい選択肢を考えるようになった」「改めて英語の大切さと英語を使うことで広がる世界の存在に気付き、もっと英語を上達させたい」「様々な文化を理解して、コミュニケーションをとることが大事だと分かった」等の声があり、英語学習への意欲を高めるとともに、他者理解や多文化共生への理解を深めて、将来のキャリアプランを考える契機としている。



海外支社とのオンライン会議に参加

4 TEP-CUP（英語で自分のアイデアをプレゼンテーションするコンテスト）

都内在学・在住の高校生を対象として、実践的な英語による発表の機会を提供して、英語学習への機運の向上と英語を用いたプレゼンテーション能力の向上を図るため、令和5年度から実施している。動画による予選と、会場で聴衆を前に発表する本選があり、優秀な成績を取めた個人又はグループは、都知事賞などの表彰を受ける。参加生徒からは「高度な英語力より、落ち着いて本番に臨む姿勢をもち、聴衆に強く訴えることこそが本当のプレゼンだと気付いた」等の声があり、多くの学びを得る機会となっている。



本選での発表

東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課 統括指導主事 下鶴 文恵

東京都教職員研修センターでは、都内の公立中学校（義務教育学校、中等教育学校を含む）等の外国語科の先生方を対象に、指導力向上と英語力向上の二本立てで、英語の専門性向上研修を実施しております。

令和6年度に実施した研修を紹介します。

1 指導力向上を目指した研修

(1) 英語【I】（デジタル教科書の活用）

「小学校・中学校外国語科の授業づくりーデジタル教科書を使った英語科の指導ー」
・デジタル教科書を使った授業実践について学び、デジタル教科書を活用した指導計画の作成及び学習指導の力を高める研修

〔日程〕 9月30日（月）

〔会場〕 東京都教職員研修センター

(2) 英語【I・II】（一人1台の学習者用端末の活用）

「一人1台の学習者用端末を活用した外国語科の指導法」

・模擬授業・実践発表を通して、外国語科における一人1台の学習者用端末の活用について体験的に理解するとともに、授業中にデジタル機器を活用して効果的に指導する能力を高める研修

〔日程〕 9月26日（木）

〔会場〕 東京都教職員研修センター

(3) 英語【II】（グローバル化に対応した実用的な英語力の育成）

「中学校・高等学校外国語科の授業づくり

ーグローバル化に対応した実用的な英語力を育成する指導の工夫ー」

・生徒の4技能を養い、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導の工夫について学び、自身の授業改善を図る研修

〔日程〕 9月18日（水）

〔会場〕 東京都教職員研修センター（オンライン配信を実施）

〔講師〕 一般財団法人実用英語推進機構 代表理事 安河内 哲也 氏

2 英語力向上を目指した研修

(1) 英語授業力UP講座 Advanced（ティーチャートーク、ALTの活用、フリートーク）

「ティーチャートークの技術を高めよう」

「ALTとのチームティーチングや打合せに役立つ表現を学ぼう」

「英語によるフリートークを楽しもう」

・ネイティブ講師とのオールイングリッシュによるコミュニケーションを通して英語に対する自信を高めるとともに、指導に役立つ発展的な英語表現を習得する研修
〔日程〕10月1日(火)・10月3日(木)・10月4日(金)
11月5日(火)・11月7日(木)・11月8日(金)
〔会場〕全てオンライン：受講者の所属校

(2) 英語コミュニケーション(日本の伝統・文化紹介)

「日本の伝統・文化を英語で紹介しよう」

・都内の名所を英語で紹介する等の実地研修を通して、自身の英語力を高める研修

〔日程〕第1回：11月1日(金) 第2回：11月15日(金)

〔会場〕第1回：東京都教職員研修センター 第2回：神田明神及びおりがみ会館

(3) 英語力UP講座

「英語力UP講座 -問題演習や講師との模擬面接を通して-」

・講師との問題演習や模擬面接を通して、英語検定(準2級、2級、準1級、1級)の取得等に必要な英語力を身に付ける研修

〔日程〕

準2級 【集合】 8月20日(火)・9月9日(月)・9月19日(木)

【オンライン】 6月24日(月)・7月1日(月)・7月8日(月)

2級 【集合】 8月21日(水)・9月10日(火)・9月20日(金)

【オンライン】 6月25日(火)・7月2日(火)・7月9日(火)

準1級 【集合】 8月22日(木)・9月12日(木)・9月26日(木)

【集合】 10月7日(月)・10月17日(木)・10月28日(月)

【オンライン】 6月27日(木)・7月4日(木)・7月11日(木)

1級 【集合】 8月23日(金)・9月13日(金)・9月27日(金)

【集合】 10月8日(火)・10月18日(金)・10月29日(火)

【オンライン】 6月28日(金)・7月5日(金)・7月12日(金)

〔会場〕集合：東京都教職員研修センター、オンライン：受講者の所属校

「英語授業力UP講座 Advanced」、「英語コミュニケーション」、「英語力UP講座」は、英語研修実績のある企業と業務委託契約を締結し、ネイティブ講師等による専門的な英語スキルを取り入れた研修を実施しています。

3 令和7年度の専門性向上研修について

令和7年度も指導力向上と英語力向上の二本立てで、英語の専門性向上研修を実施する予定です。詳細は、令和7年4月以降、東京都教職員研修センターのWebページで御確認ください。

九段版Cinderella完成までの道のり

九段中等教育学校 主任教諭 石上 新太郎

「シンデレラが舞踏会ではなく武闘会に出たら面白いんじゃない？」という、ある生徒の一言がきっかけで、本作は作成された。舞踏会と武闘会。これは日本語だからこそ通じる洒落なのであるが、当時の生徒たちは話に熱中してそれに気付かず、「シンデレラを男の子にしよう！」、「魔法にかけられたらドレスじゃなくて柔道着がいいんじゃない？」、「ガラスの靴はスニーカーだ！」という様に、次々にアイデアが出てきた。子供たちの自由で柔軟な発想にこちらも思わず笑ってしまった。

本校では、例年3年生が英語劇に出場しているが、特筆すべき点といえば、「生徒が主体的に作品を作り上げる」という点であろう。夏休み前に脚本班が上のようなユーモア溢れる台本を書いたあと、演者班が集まり、練習を開始した。ところが、夏休み中であつたので、部活動や補習でなかなか人数が揃わない日々が多かつた。演者たちもどこから練習をしてよいのかわからず、ついには戦いの動きのみを練習したときもあつた。「おいおい…英語劇じゃなかったのか。」と、この時ばかりは、さすがの私も心配になつたが、本作の殺陣のような、激しくもよく練られた戦闘シーンはこの練習のおかげで生まれたものであるから、わからないものである。演者が台詞を覚え、ステージで音響と照明を合わせて練習したのは本番1か月前の11月。その頃大忙しであつたのは道具班であり、大道具と衣装の作成を急ピッチで行つていた。生徒たちは、最終下校時刻まで被服室で黙々とミシンやアイロンを動かしていた。音響、照明、道具といった役割は舞台に上がることはないが、彼らこそまさに本作を第1位にまで導いた陰の立役者である。そしていよいよ本番当日、リハーサル室で監督と主演から最後の声掛けをしたあと、全員で円陣を組んだ。「絶対1位を取る！」、「私たちならできる！」という掛け声とともに、全員で力を合わせた一つの作品はいよいよ本番を迎えた。本番はこれまでのどの練習よりもスムーズで、ミスもないベストアクト。終演後、楽屋の様子を見てみると、達成感や充足感を分かち合っている様子がそこにはあつた。そして結果発表では見事第1位。アナウンスされた瞬間の生徒たちの歓声が忘れられない。

以上が今回の英語劇の歩みであつたが、私がこの活動を通じて感じたことが二つある。一つ目は、「普段の授業における発表活動の大切さ」である。本校では1年次より、教科書本文のスキットの発表を行っている。場面や状況といった英文の内容を考えさせることで、生徒は英語の発音やアクセント、イントネーション、そしてジェスチャーまで意識するようになる。この指導を継続的に行うことで、生徒の英語力が伸びていくということを改めて感じた。二つ目は、「生徒の力を信じ、生徒自身で作品を作らせることの大切さ」である。今回、脚本から演出、道具に至るまでのすべてのことを、監督の生徒を中心に生徒が主体となり行った。本作品が成功を収められたのも、やはり「教師から指示を受けてやらされている」のではなく、「自分たちでより面白いものを創り上げるからやる」という、生徒たちの内側から湧き上がる動機からであつた。自分たちで創り上げるからこそ、自分たちの作品に愛情をもち、必死に練習に取り組み、終わった後は仲間と肩を抱き合つて達成感を味わうことができる。この経験は生徒だけでなく、一教員として私も今後の自身の指導観を形づくる、大きな気付きになつた。

後世に受け継ぐべき日本文化

世田谷区立梅丘中学校 主任教諭 林田 奈美

聡明で知的好奇心旺盛、そして人一倍努力家。文武両道で非の打ち所がない谷口さんこそ、名実ともに生徒会長にふさわしい。そんな彼女が今回スピーチの題材として選んだのは、失われつつある日本の伝統文化を後世に受け継いでいく重要性だ。しかもその伝統文化に挙げたのが、華道や茶道など一般的に知られている日本文化ではなく、「狂言」なのである。

梅丘中学校では、3年生が修学旅行で京都・奈良を訪れ、大江能楽堂で狂言を鑑賞する機会がある。私自身引率で実際に狂言を見て初めて、近寄りがたい難しそうなイメージだった狂言の面白さを知ることができた。しかし谷口さんはまだ中学2年生だ。一体どうやって狂言に触れたのだろうかと不思議に思った。

聞けば彼女は、小学校6年生のとき、東京都が主催する伝統芸能を学ぶ講座に半年間通い、最終的には国立能楽堂でパートナーと2人組で狂言を発表したそうだ。そして今年、世田谷区が主催するプログラムで、4月から週に一度、弓道を学んでいるらしい。どのくらい弓道ができるようになったのかを尋ねたところ、やっと最近、的に当てられるようになってきたとのことだった。自分が興味・関心をもったことを積極的に学びに行く姿勢が、何とも素晴らしいではないか。彼女こそまさにIndependent Learner（自立した学習者）なのである。

「英語を話せるようになりたいけれど話せない」という人の中に、そもそも話したいことがない人がどれほど多いことか。根本的に伝えたいことがなければ、話せるわけがないのである。今回彼女は、自分が伝えたいことを経験やデータなどの根拠に基づいて、しっかりと伝えることができた。自分の考えを相手に正しく伝えるためには、発音や抑揚の正確さも重要だ。彼女の原稿が完成した後、まずALTの見本動画を見て練習を始めてもらった。幸い彼女は幼稚園の頃からずっと英語教室に通っているようで、英語の発音がとても美しい。それでもいくつかの単語には最後まで苦戦していたが、本番までにはきちんと修正できていた。また、仕上げの段階では、ジェスチャーにも力を入れて練習したことで、スピーチに表現力や説得力が増した。iPadで発表を録画して客観的に振り返る機会を設けたり、原稿を見ずに発表を聞いて、聴衆者として理解が難しかった箇所の助言をしたりもした。本校の全ての英語科教員とALTが、それぞれの最も得意とする分野で彼女の練習に関わった。その上で、一を聞いて十を知ることができる彼女は、各指導者から最良のものを吸収し、不断の努力で自分のものとしていった。今回都大会優勝という快挙を成し遂げて、「青は藍より出でて藍より青し」という教師冥利に尽きる感動を与えてくれた彼女には感謝している。

最後になりますが、本校の英語科教員及びALTをはじめとするご支援くださった多くの方々、並びに、世田谷区と東京都中学校英語学芸発表会を運営してくださった関係者の皆様に、彼女のようなIndependent Learner（自立した学習者）が、さらに切磋琢磨する機会を与えてくださったことに心より感謝申し上げます。

令和5年度研究発表について

副部長 高杉 達也（筑波大学附属中学校）

1 前年度までの研究のあらまし

令和4年度は、前年度に選定した「研究部中学校推奨語い1800」および「研究部小学校推奨語い700」の中から、中学校で発信語彙として扱うべき語を選定する研究を進めた。選定する上で、小学校（7社）・中学校（6社）の検定教科書において、太字で示されている重要語句を参考にするとともに、実際に中学生に書くことの活動に取り組みさせて使用した語彙を調査し、その重なり度から中学校で発信語彙として扱うべき語を検討した。

また、各研究部員が実践している語彙指導法を部会に持ち寄り、Nation（2001）のForm（語形）・Meaning（語義）・Use（使用）の3分類に従ってリスト化し、研究部研究冊子「語いと英語教育45」に掲載して紹介した。

2 令和5年度の研究

令和4年度の研究の際に抽出した「英語で書きたかったけれども書けなかった日本語」のデータを利用し、書くことの発信活動で中学生はどのような語彙を使いたいのかを調査した。あわせて、上記2つの語彙リストを多くの中学校現場で活用していただくために、それぞれのリストを研究部員が活用した実践例を部会に持ち寄り、協議および検討した内容を研究冊子「語いと英語教育46」に掲載して紹介した。

「英語で書きたかったけれども書けなかった日本語」を分析した結果、わかったことの1つが、生徒が書けなかった表現として多くの既習語が記述されていたことである。教科書などをとおして触れたことのある語彙であっても、発信語彙として生徒が活用できるようになるためには、何度も語彙に触れたり使ったりする機会がなければならないということが改めて示唆された。また、生徒が書けなかったものとして記述した語彙のうち、98%が名詞、動詞、形容詞、副詞といった内容語で、さらにそれらはトピックによって大きく異なることも明らかになった。

3 今後の課題

令和5年度の研究を通して、生徒がどのような語彙のニーズをもって、書くことの活動に取り組んでいるかを把握することができた。またそのニーズはトピックごとに大きく異なり、発信活動がどのような題材のもとに実施されているかによって、生徒が必要とする語彙も一定ではないことがわかった。今後は、そのような生徒の「表現したい」という願いを実現できるような、実際の授業で利用することができる補助教材を語彙リストを基に作成できないか研究を進めていく予定である。

4 参考文献

Nation, I. S. P. (2001). Learning Vocabulary in Another Language. Cambridge University Press.

東京教師道場を終えて — 修了者支援制度を利用した授業改善 —

葛飾区立新小岩中学校 主任教諭 木村 浩隆

東京教師道場修了者を対象に、2年間の研修の修了後1年間に限り授業力向上の取組等について、教授が指導・助言を行う修了者支援という制度がある。私はこの制度を利用して、「聞くこと」に関する研究授業を行った。「聞くこと」を選んだ理由として、①「聞くこと」に関する授業が自分の中でまだ確立されていなかったこと、②まとまった量の英語を聞き取る能力に生徒間で差が見られていたこと、③昨年度末に行った授業アンケートの中から「聞くことの授業がやりたい」との生徒からの要望があったことが挙げられる。私は教授にその相談をしたところ、教授から「聞くこと」に関する参考資料を頂いた。

今回は、頂いた資料を基に教科書の題材（リスニング）の音声を使って研究授業を行った。授業は2時間構成で、第1時は、教科書の登場人物からの留守番電話を聞いて、その返答をするのに必要な情報を聞き取ることができることを目標に授業を行った。第2時（本時）では、教科書の登場人物が週末の予定について会話をしている場面で、当日集合するのに必要な情報（当日することや集合時間、集合場所）を聞き取ることができることを目標として設定した。授業の大まかな流れは以下の通りである。

【授業の前半】では、まとまりのある文章を聞くために、2段階の聞き取りを行った。第1段階は、会話の大まかな内容を聞き取る活動を全体で行い、会話の概要を把握した上で、当日集合するためにはどのような情報を聞き取るべきかを全体で明らかにした。その上で、第2段階として、細部の必要な情報を聞き取る活動を学習用端末を使って個人で行った。

【授業の後半】では、音読やシャドーイングなどの練習を通して、内容語を捉える意識をもたせることで、どの部分で大切なことが話されていたか、どのような言い方がされていたか等を英語でそのまま理解させる。また、内容語を強くはっきりと読むことを意識させることで英語特有の強勢が生まれることを生徒に体感させる。これにより自然な速さで話される英語を聞き取る力を培う。

授業後、教授と私とで一对一の協議会を行った。授業の記録映像を確認しながら振り返ったことで、様々な課題に気づき、とても内容の濃い協議会になった。数ある課題の中で、特に聞くべきポイントは何かを生徒に発問し、生徒の聞く必然性や主体性を引き出すべきであったが、教員主導で提示してしまったことが悔やまれた。道場の2年間で生徒から考えを引き出すことの大切さを何度も学んでいたにも関わらず、それを生かせなかったことが課題として残った。

次時の授業では、授業の冒頭で前回の授業を振り返った後、新しい単元に入ることとなったが、授業終了後に生徒からまた「聞くこと」の授業がやりたいとの声をもらった。課題の多い授業ではあったが、生徒が自ら「学びたい」と思えるような授業に一步近づけたような気がして嬉しく思い、この言葉に心から励まされた。そういう言葉が生徒から出るような授業を目標にこれからも研鑽を積んでいきたい。

葛飾区における他国との交流及び異文化体験の取組

葛飾区立上平井中学校 校長 板垣 繁
葛飾区立奥戸中学校 主幹教諭 田島 大介

1 主題設定の理由

第5分科会は、「地域連携を通じた他国との交流」がテーマということで、東京都からは葛飾区立中学校における他国との交流及び異文化体験の取組について報告した。

2 取組の概要

以下の取組は全て葛飾区教育委員会の「グローバル人材の育成」事業で、区内全校を対象に行っている取組である。

①中学生英語体験プログラム（TGG）

TGGでの体験的な英語学習を通し、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る取組

対象：区内全24校の中学1年生（小学校5、6年生でも実施）

場所：TGG BLUE OCEAN（江東区青海）※立川市にも同様の施設あり

内容：Task-Based Language Teachingを取り入れた「アトラクションプログラム」と、Content and Language Integrated Learningを取り入れた「アクティブイマージョンプログラム」がある。前者では、リアルに再現された各種アトラクション（航空機内やスーベニアショップ等）で、ネイティブスタッフと現地さながらのやり取りを体験する。後者では、「Art & Performance」、 「STEM」等6つのセグメントに分かれ、内容に関する新しい学びや考え方・気づきを得ていく過程の中で、必要な英語の語彙や表現を学ぶ。

事前指導：TGG作成の事前学習ブック（Prep Book）や事前学習ビデオを活用し、シーン別での英会話表現や館内での過ごし方等の学習を行う。また、事前アンケートとして、英語学習に対する意識調査を行う。

事後指導：TGG作成の事後学習ビデオ等を活用したTGGでの学習の振り返りや、事後アンケートとして実施後の意識調査を行う。

②オンライン交流

フィリピンセブ島の大学生たちと、互いの文化等について英語で交流を行う取組

対象：区内全24校の中学2年生

場所：各校で実施

期間：2学期始めから3学期始めの期間（この間に2回実施する）

内容：(1) 日本とフィリピンの食生活 (2) 日本とフィリピンの学校生活

事前指導：オンライン交流会話例文を活用、使用場面を想定し、会話練習を行う。

事後指導：交流会後、振り返り（またはアンケート）を行う。

③イングリッシュ・キャンプ

国内にある海外体験施設で、2泊3日の英語による生活を体験する取組

対象：区内全24校を対象に希望者を募り、選出された約100名の生徒を引率

期間：2泊3日（7月末夏季休業中）

場所：ブリティッシュヒルズ（福島県岩瀬郡）

内容：英国の学校を見立てた施設で、英国及び旧英連邦諸国のスタッフによりレッスンが行われる。活動は全て英語で行われ、課題解決学習をはじめ異文化理解やテーブルマナー講習、オリエンテーリングなどのプログラムがある。

事前指導：区内で2回集合し、アイスブレイキングや英語活動、レジストレーションカードの作成、生活の決まりの確認、当日までの課題指示等を行う。

事後指導：レポートの作成と、各校の文化祭等で活動報告を行う。

3 取組の成果と今後の課題 ※（ア）（イ）は、①～③共通の成果と課題

(1) 成果

(ア) モチベーションの向上

- ・年間行事に位置付けられた事業への参加で、英語学習に目的意識が生まれる
- ・学習したことを「実践の場」で試すことにより、できたこと・うまくいかなかったことを今後の英語学習に生かしていこうとする意欲の向上につながる

(イ) 教員の指導力向上

- ・引率した英語科教員は、研修を積んだスタッフの質の高い授業を参観し指導のヒントを得て、普段の授業に生かすことができ、必要な指導の方向性が見えてくる
- ・具体的目標（海外での実践的な英語の運用）に向け授業を組み立てるようになる

① 中学英語体験プログラム（TGG）の主な成果

- ・教室とは異なる実践的な空間での体験を通して、コミュニケーション意欲の向上や心理的抵抗感の低減が見られる
- ・より実践的な英語によるコミュニケーション体験を得られる

② オンライン交流の主な成果

- ・現地の学生と、即興でやり取りしながら異文化交流を図ることができる
- ・セブ島は1年次の教科書で取り上げられており、学習内容を深める機会につながる

③ イングリッシュ・キャンプの主な成果

- ・3日間で日を追うごとに参加生徒の英語運用能力が高まっていることが確認できる
- ・英語運用能力の向上に加え、英語漬けの生活により、コミュニケーション・ストラテジー（言葉に詰まったときの方略）の向上も確認できる
- ・各校での体験報告会で、区内中学生全体の英語に対する興味関心が向上する

(2) 課題

(ア) 他国との交流・異文化体験の取組と日々の授業の相乗効果を高めること（教師の指導力向上）

上述の取組内容は、決して単発の「行事」という位置付けではなく、日々の学習成果を図る、または今後の学習の指標となる「実践の場」である。英語科教員は、このような取組で生徒が学ぶ（体験する）学習内容の把握や現地スタッフの指導法を学び、日々の学習指導に生かすことで各事業と日々の授業の相乗効果が高まり、より質の高い英語学習（体験）につながると考える。

(イ) 生徒の即興でやり取りする英語力をより高めること

生徒の英語によるパフォーマンス（特に即興でのやり取り）を高めることで、他国との交流・異文化体験をより充実させていく必要がある。

4 その他

発表の最後に、前述した生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための東京都の取組として「中学校英語スピーキングテスト」(ESAT-J)について触れ、生徒の学習意欲を高める他、東京都の英語科教員に「即興」を重視した英語の「話すこと」の指導の重要性が広く認知され、授業改善の一助になっていると報告した。

総務部報告

(総務部長 板垣 繁)

1 定期総会

6月6日、葛飾区立常盤中学校にて、対面及びオンラインによる定期総会を開催した。

2 地区幹事名簿作成

今年度の各地区幹事名簿を作成した。

一昨年度から、各地区への連絡について、資源及び経費削減の観点から、従来の交換便及び郵送による方法を見直し、可能な限りメールによる伝達を行うことを目指し、推進してきた。今年度からは、各地区のシステムが整ってきたことにより、特別な場合を除いてメールによる伝達のみとした。

58地区中、57地区とメールによる連絡が可能となった。

3 第48回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会千葉大会第1回理事研修会

※オンライン

6月27日、開催方法や分科会のもち方等について協議した。特に東京都の参加する分科会の在り方については修正案を基に検討を重ね、より充実した研究協議ができるよう改善を図った。

その後、東京都の発表者と連絡を取りながら、発表に向け準備を進めた。

4 全英連との連携

9月、1月に「中英ネットワークショップ」の開催案内を、各地区幹事を通して会員に周知した。

5 第63回大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会北九州大会

10月31日、紙面での情報交換とオンライ

ンによる協議等が行われた。

(本大会については別ページに詳細)

6 第48回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会千葉大会第2回理事研修会

※オンライン

10月29日、翌週に控えた本大会の最終確認及び次年度の第一案の検討を行った。

7 第48回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会千葉大会

11月8日

(本大会については別ページに詳細)

8 令和6年度東京都教職員研修センター教育課題研究発表会

11月、本発表会の教育実践発表に向けたポスターを制作し、提出した。

研究発表会 1月31日から3月31日まで

9 役員会

4月15日 (会長・副会長会)

・今年度活動の打ち合わせ

6月3日 オンライン

・役員組織等の確認

・年間事業計画の検討

・中英研定期総会に向けて 他

9月17日 オンライン

・夏季ワークショップ報告

・英語学芸大会の運営について

・各部の事業報告 他

12月11日 オンライン

・各部の事業報告 他

2月17日 一部オンライン

・令和6年度の活動のまとめ

・令和7年度事業計画について 他

事業部報告

(事業部長 稲葉 高広)

1 サマーワークショップ(ハイブリッド開催)

開催日：令和6年8月26日(月)

会場：都立豊多摩高等学校

テーマ：『小・中・高・大 実践事例集とその展望』～英語発信力の強化を図る校種間の円滑な接続を目指して～

- ・東京型グローバル人材育成モデルの理念と英語授業
- ・AIを活用したスピーチ指導と採点(AKA株式会社)
- ・小中高大接続

講師：東京都教育庁グローバル人材育成部 国際教育企画課指導主事 宮本 司 様

発表者：島村 雄次郎(立川・第七小)
黄 俐嘉(千代田・九段中等)
亀田 洋斉(都・豊多摩)
佐藤 ひろみ(順天堂大)

都内外からのオンライン参加を含め、40名以上の参加があり、生徒が世界で通用する英語力を身に付けるため、小・中・高・大の連携を密にする意識を会場全体でもつことができた。

2 第39回 授業力アップ研修会

開催日：令和6年10月7日(月)

会場：都立豊多摩高等学校

テーマ：「中高接続 ～「話すこと」に焦点を当てた単元構成及び授業展開～」

授業者：亀田 洋斉(都・豊多摩)

指導・講評：東京都教職員研修センター 研修部教育開発課 指導主事 鈴木 美帆 様

対話を重視した授業公開では、中学での学習履歴を踏まえ、単元を計画し、高校での3年間の学習にどう結び付けるかが授業づくりの肝であることが示された。

3 第77回 東京都中学校英語学芸大会

(1) オンライン開催【11月30日(土) 於：文京区立茗台中学校】

◇Speakingの部A(応募数11)

- 第1位…I don't Think War is Necessary
世田谷区立瀬田中学校 Kotone Watanabe
- 第2位…Studying Leads to Happiness,

or Does It ?

港区立港南中学校 Miu Okubo

第3位…Live Forever

港区立港南中学校 Hideyuki Tatsumi

◇Speakingの部B(参加数3)

第1位…The Nature of Being “Kenkyo”

目黒区立第八中学校 Sana Nakajima

第2位…When She Meets AI

港区立港南中学校 Alina Zhiai Zhou

第3位…Relationships through Differences

港区立港南中学校 Sato Karen

◇Playの部(参加数6)

第1位…Two Lords and A Stranger

東京学芸大学附属小金井中学校

第2位…The 2024 Shinkoiwa JHS English Club

葛飾区立新小岩中学校

第3位…Step for the Future

板橋区立上板橋第一中学校

◇Performanceの部(参加数8)応募のあった作品はすべて優秀作品として表彰。

参加校等は都中英研ホームページに掲載。

(2) 集合開催【12月26日(木) 於：かめありリリオホール】

◇Speakingの部(参加数170)

第1位…Our lives with Japanese Culture

世田谷区立梅丘中学校 Taniguchi Ema

第2位…A Rainbow-Colored World

御成門学園御成門中学校 Cheng Youli

特別賞…Washoku

新宿区立落合中学校 Amy Yamasaki

◇Playの部(参加数5)

第1位…Cinderella

千代田区立九段中等教育学校

第2位…Alice in Dreamland

都立小石川中等教育学校

第3位…The Legend of the Green Forest

練馬区立石神井西中学校

オンライン・集合開催ともに、応募数の増加を目指し、さらなる普及・広報活動を行う。

4 第40回 授業力アップ研修会

開催日：令和7年1月21日(火)

会場：千代田区立九段中等教育学校

テーマ：「読むこと」に焦点を当てた単元構成及び授業展開

授業者：黄 俐嘉(千代田区・九段中等)

指導・講評：順天堂大学国際教養学部 客員教授 佐藤ひろみ様

中学3年の教科書で扱う長文内容を、初見で読む際の指導について授業公開した。参加者とともに、「読むこと」のより良い指導方法を考える場とした。

調査部報告

(調査部長 荒川 高広)

1 コミュニケーションテストについて

昨年度は調査部員の所属校に限定して試行したが、本年度より希望するすべての学校で実施することとした。また、昨今のICT環境の動向を鑑み、タブレット端末を用いた出題、解答を試みた。

端末を用いての出題、解答に関しては通信環境に影響されてしまうことや、読解問題のスクロールのしづらさなど課題もあり、部としても出題方法を検討していきたい。

一方、今年度初の試みとして、参加校の先生方に夏休み中に調査部員とともに、ライティング問題の採点を行ってもらうこととした。参加者から、「複数人で確認しながら採点をすることにより、様々な視点を得ながら採点することができた」「思判表の観点について、改めてポイントを確認することができ、自校でのテスト作りや日々の指導の見通しが、よりイメージできるようになった」などのフィードバックがあった。この形式は次年度もぜひ継続していきたい。

2 夏季ワークショップ

日時：令和6年8月20日(火)

内容：

【講義】

『『コミュニケーションテスト』のスペックから問題作成へ ～聞くこと～』

【ワークショップ】

参加者が作成した1学期の定期考査問題について協議、改善案発表、講師助言

講師：工藤 洋路 先生 [講義・助言]

(玉川大学文学部英語教育学科教授)

本多 敏幸 先生 [助言]

(都留文科大学非常勤講師ほか)

まず工藤先生から、学習指導要領や国立教育政策研究所の資料などを押さえつつ、「聞く力」を測る考査問題作成のポイントについて御講義いただいた。例えば既習テキストとテスト問題とをどう関連付けるか、そしてテキストやタスクにどうやって真正性を与えるかなどについてである。続いて問題作成の実務的な作業として「スペック」作成の重要性を御講義いただいた。

続くワークショップでは、参加者が各校で実施した考査問題のうち「聞くこと」の領域で作成したものを持ち寄り、当該問題についてグループごとに協議した。グループ内で共有した問題例のうち1つを選定し、どうしたら、より出題者の見取りたい力を測るのに適切な問題(リード文や設問など)になるかをさらに協議した。最後に、各グループが当初の問題と改善後の問題案について発表し、工藤先生、本多先生より御助言をいただいた。

実際の考査問題を題材にすることで、測りたい力に見合った目的・場面・状況の設定の仕方などを具体的に考えることができた。(参加者54名)

<ワークショップ参加者より>

- 普段の授業でのリスニング指導を学ばないといけないと思いました。ただ聞かせているだけで、実は何も指導できていない気がしてきました。
- 「既習」テキストからの問題の作成をいかにオーセンティックかつリアルライなものへ変化させるか、日頃の授業とのプロセスを一貫性のあるものにしなければならぬ。それにより、妥当性・客観性・公平性のある評価につながることを学びました。
- リスニングテストというと「理解」分野の問題だという認識から逸脱できていなかったのですが、知識・技能と思考・判断・表現を意識して作成することの大切さを理解することができました。リスニングテストというと独立したものと捉えがちですが、普段の授業が大切だと痛感しました。

研究部報告

副部長 橋本 晋作 (渋谷区立松濤中学校)
副部長 森沢 俊彦 (日野市立日野第三中学校)

1 研究主題と研究の概要

研究冊子『語いと英語教育47』

- ①「生徒の表現の幅を広げる発信語彙リスト」
前年度の研究「英語で書きたいのに書けなかった日本語品詞別一覧」(2023)を作成した際に用いたデータを英訳し、トピック別日英対照語彙リストを作成した。加えて「語順ナビ」を作成し、生徒の発信活動の支援ができるようにした。
- ②ICT機器を活用した指導実践例
コロナ禍を発端に急速に変容を遂げている教育現場のICT化に焦点を当て、研究部員が実践している語彙指導の実践を月例の部会で報告し、実践事例集を作成した。

2 研究部ワークショップ

本年度は、対面で実施し、研究部員が実践発表を行った。

第1回(対面):7月31日

会場:大田区立志茂田中学校

参加者 70名

- ①「特別支援学級におけるプロジェクト型英語指導の実践事例とその活用」
五井 沙織(板橋区立高島第一中学校)
- ②「はじめてみよう、Try Out活動! ~既習事項を使って、生徒が言いたいことをTry Outさせてみませんか~」
小澤 美沙姫(杉並区立泉南中学校)
- ③「発信語彙を拡げる主体的で対話的な学びの実践例」
長谷川 眞司(小平市立小平第三中学校)

第2回(対面):8月5日

会場:杉並区立泉南中学校

参加者 94名

- ①「まとまりのある英文を書き、話すことへつなげる工夫~苦手意識のある生徒たちとの取り組みを通して~」
福島 恵子(清瀬市立清瀬第三中学校)
- ②「主体性を引き出すディスカッション指導の工夫~学習者一人一人の深い学びに向かって~」
多田 翔(江東区立第三砂町中学校)
竹元 智子(葛飾区立桜道中学校)
- ③「即興で話す力を高める授業実践~検定教科書の内容について~」
松野 麻里恵(港区立三田中学校)
前田 宏美(新潟青陵大学)

3 公開授業・研究発表会

2月21日(金)、日野市立日野第一中学校の食堂で、公開授業と研究発表会を実施した。

(1) 公開授業

授業者:宮崎 太樹 主任教諭

(日野市立日野第一中学校)

内容:Unit 8 “Getting Ready for the Party” Here We Go English Course 1 (光村図書)

(2) 研究発表

(研究冊子「語いと英語教育47」)

発表者:小澤 美沙姫

(杉並区立泉南中学校)

五井 沙織

(板橋区立高島第一中学校)

①「生徒の表現の幅を広げる発信語彙リスト」

②ICT機器を活用した指導実践例

(3) 指導講評・講演

講師:本多 敏幸(都留文科大学)

※昨年度から研究部ウェブサイトがリニューアルされ、URLが変更になった。随時内容を更新していく。

URL:<https://sites.google.com/view/tokyo-chueiken-kenkyubu>

プロジェクトチーム部報告

(プロジェクトチーム部庶務 飯沼 美千代)

今年度プロジェクトチーム部では、「音読指導から書くことの活動へ」というテーマのもと、音読指導を目的に応じた使い分けや書く場面の設定方法、生徒の表現意欲を高める方法、継続的に書く仕組み作り、添削の方法や生徒のつまずきへの指導方法、ライティングを取り入れた技能統合活動の開発、パフォーマンステストや定期テストにおける評価等について研究を行い、研修会を2回実施した。1回目は夏季休業中にPT部員の実践報告、講師のワークショップ形式での研修であった。「生徒が書きたくなるライティングの指導と評価」の側面より、テーマ設定から実際の授業における生徒の活動の様子を通して最終的に評価に至るまでの過程について実践例をもとに体感する内容であった。2回目はPT部員による研究授業を行った。今回は、既習の知識を用いて書く場面を多く設定すると、積極的に英語を「書く」生徒になっていく様子を公開することができた。

夏季研修会 (於：墨田区立吾嬬立花中)

日時：令和6年8月22日(木)

内容：PT部による実践報告・

ワークショップ：「音読指導から書くことへの活動へ 一生徒が書きたくなるライティングの指導と評価」

講師：文教大学教授 阿野 幸一 先生

研究授業・研修会(於：江戸川区立二之江中)

日時：令和7年2月13日(木)

内容：授業研究「音読指導の充実と書くことの指導と評価の工夫」

授業者：江戸川区立二之江中学校

教諭 村山 幸広 先生

ワークショップ：「書きたい気持ちを高め書く力をつけるための指導のために 一音読指導をふまえて」

講師：文教大学教授 阿野 幸一 先生

出版部報告

(出版部長 今本 由美子)

出版部では、主に「都中英研だより」と「中英研会報」の作成・発行を担当している。今年度も、部会は集合を基本としながら、会場に来ることが難しい部員についてはオンラインを併用して実施した。また編集作業についても、作業内容に合わせ、集合とオンラインを併用して進めた。

1月の部会(主に校正作業)の前には、千代田区立九段中等教育学校で授業を見せていただき、授業改善に向けて、自身の授業の振り返りと意見交換を行った。

デジタル化の推進、物価上昇、輸送費高騰の中ではあるが、「会報」については、紙面構成や発送方法の工夫等を行いながら、引き続き冊子として発行し、各校にお届けする予定である。

○「都中英研だより」第78号

(令和6年10月1日発行)

会長あいさつ「都中英研の人材育成で組織を活発化させる」、また、事業部、調査部、研究部、PT部サマーワークショップの報告、中英研各部の紹介を掲載した。

○「令和6年度 中英研会報」第83号

(令和7年3月1日発行予定)

都中英研の年間活動や英語教育活動のまとめ、また、日々の授業実践等に役立つ情報の発信として、「小中高大の連携やICT、AIを活用、名作・名文に触れ自らの学び方をつくる」、「言語活動の充実に向けて」「令和6年度東京都教育委員会の取組」、「東京都教職員研修センターにおける外国語(英語)に関する研修について」、また、英語学芸大会報告、実践研究、各地区の活動状況、中英研事業報告、各部活動報告等を掲載する予定である。

第63回大都市公立中学校
英語教育研究会連絡協議会
北九州大会報告

(小中連携教育担当 赤田 洋一)

1 開催日時

令和6年10月31日(木)

13:30~16:50

2 開催方法 オンライン

3 研究主題

「北九州市の外国語教育における小・中連携の現状と課題」

4 参加該当都市

札幌市／仙台市／さいたま市／千葉市／東京都／川崎市／横浜市／静岡市／浜松市／名古屋市／京都市／大阪市／堺市／神戸市／岡山市／広島市／北九州市／福岡市／熊本市

5 次第

・開会挨拶

北九州市立白銀中学校

校長 寺田 政幸 先生

・北九州市教育委員会挨拶

学校教育課長 武藤 佐予 様

・実践発表

①北九州市立企救丘小学校

指導教諭 福田 峻也 先生

○テーマ「自他の思いを尊重し、主体的にコミュニケーションを図る外国語活動・外国語科学習指導～コミュニケーションへの意欲を喚起する単元構成と小中9年間を見通した指導の実際～」

○研究の概要

- 1 コミュニケーションへの意欲を喚起し、持続させる単元構成
- 2 ICTを活用した個別最適な学びと共同的な学びの場の設定
- 3 小中9年間を見通した指導の実際

②北九州市立洞北中学校

波多野 皓一 先生

(現 北九州市立教育センター指導主事)

○テーマ「北九州市型外国語教育を見据えた小中連携～小中をつなぐ言語活動と適切なフィードバックの実際～」

○研究の概要

1 小中連携の取組の視点

- (1) 小中をつなぐ指導体制
- (2) 小中をつなぐカリキュラム
- (3) 小中をつなぐ言語活動

2 中学校における取組の改善

・記念講演

長崎大学教育学部・大学院教育学研究科
教授 中村 典生 先生

「効果的な言語活動と個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

○参考資料

令和5年度全国・学力学習状況調査問題解説資料

https://www.nier.go.jp/23chousa/pdf/23kaisetsu_chuu_eigo_1.pdf

教育課程部会における審議のまとめ

https://www.mext.go.jp/content/20210312-mxt_syoto02-000012321_2.pdf

令和5年度「英語教育実施状況調査」概要

https://www.mext.go.jp/content/20240527-mxt_kyoiku01-000035833_1.pdf

初等中等段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン

https://www.mext.go.jp/content/20230718-mxt_syoto02-000031167_011.pdf

・質疑応答

・実践交流 各都市より

・次大会開催都市挨拶

福岡市立下山門中学校

校長 石井 孝二 先生

・閉会挨拶

北九州市立白銀中学校

校長 寺田 政幸 先生

6 次大会開催都市

福岡市

**第74回 全国英語教育研究団体
連合会総会**

**第74回 全国英語教育研究大会
埼玉大会**

「“シン・英語教育”～four skillsから
skill integrationへ、そしてcompetency
の育成へ～」

全英連 副会長
兼 中学部会長 難波 浩明
(足立区立加賀中学校)

1 大会の主題等

令和6年11月15日(金)～16日(土)、埼玉
県にて、第74回全英連総会及び全国英語
教育研究大会が開催された。「“シン・英語
教育”～four skillsから skill integrationへ、
そしてcompetencyの育成へ～」を大会テー
マとして、グローバル化・高度情報化が急
激に進展する変化と挑戦の時代に生きる児
童生徒にとって、必要な英語教育とは何か
を小中高の学びの観点から探る。

2 総会・記念講演

- (1) 期 日：令和6年11月15日(金)
- (2) 会 場：サンシティホール(越谷サン
シティ)
開会の辞、会長挨拶、祝辞、
来賓紹介、会務報告、感謝状
贈呈、閉会の辞等、滞りなく
行われた。

(3) 記念講演

講 師：白水 始氏
(一般社団法人教育環境デザイ
ン研究所理事・東京大学生産技
術研究所リサーチフェロー)
テーマ：「“シン・英語教育”～four skills
から skill integrationへ、そし
てcompetencyの育成へ～」

3 授業発表

- (1) 小学校実演時授業(45分)
授業実演者：渡邊 瑞月 教諭
(さいたま市立鈴谷小学校)
授業助言者：及川 賢氏
(埼玉大学教育学部教授)

<内容>

本時は、8時間扱いの6時間目の授業
で、ALTにお薦めの旅行先の魅力が伝
わるように、グループで作戦を考える内
容であった。単に、ALTにお薦めの旅
行先を伝えるというだけでなく、ALT
の好みや条件に合わせて、グループで発
表していた。授業始めのスマールトーク
では、日光に夏行きたいか冬行きたいか
を問う質問に対し、その季節を選んだ理
由も添えて英語で述べていた。

(2) 中学校実演授業(50分)

授業実演者：黒崎 輝 教諭
(さいたま市立原山中学校)
授業助言者：平木 裕氏
(鉦路市教育委員会外国語
教育アドバイザー)

<内容>

本単元は、SDGsの視点に立って、今
の日本で何ができ、何をすべきかにつ
いて、考え、伝え合う単元であった。本
時は、9時間扱いの3時間目で、リー
ディング活動の際に4人グループを作
り、達成感や自己肯定感をもたせるた
め、「ジグソーリーディング」の活動を
工夫していた。

(3) 高等学校授業実演(50分)

授業実演者：降旗 康善 教諭
(埼玉県立伊奈学園総合高
等学校)
授業助言者：池田 真氏
(上智大学文学部教授)

<内容>

本単元は、消滅の危機にある少数言語
についての教科書の内容を理解した上
で、自分が少数言語話者になった場合
の状況について考える単元であった。

内容に関する様々な質問に対して、
ペアで意見を交換し合うとともに、教
員との良好な人間関係や支援のもと、
臆することなく自分の意見を述べて
いた。

4 分科会

- (1) 期 日：11月16日(土)
- (2) 会 場：獨協大学 西棟
- (3) 分科会数：前半15部会 後半14部会
内 訳：小学校 3部会
中学校 10部会
高等学校 16部会

第47回 関東甲信地区中学校 英語教育研究協議会 千葉大会報告

(総務部長 板垣 繁)

今回の大会は、5つの分科会に分かれ、それぞれの会場のテーマに沿った発表、協議が行われた。

1 趣旨

これまでの英語教育の実践並びに英語教育の現状を見直し、英語教師自らの資質の向上と授業の改善・充実を図り、関東甲信地区英語教育の発展に寄与しようとするものである。

2 主題

Inspire!「使える」にシフトする英語教育の推進！～主体的に学び、楽しみ、発信し、仲間と深め合う授業の創造～

3 主題設定の理由

現行の学習指導要領では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ」言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指すとされている。このコミュニケーションとは、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりする行為である。

本県では、令和3年から5か年にわたる外国語教育推進計画を設定している。その目的は「外国語を使ってコミュニケーションをすることを楽しみ、自己の考えなどを主体的に発信する力のある児童生徒の育成」である。その目的を達成するために、①授業の質の向上を図る（英語指導力）②児童生徒の英語力・学ぶ意欲の向上③教員の英語力・専門性の強化を図ることを柱として、これまで研究を進めてきた。

本大会においては、副主題を「主体的に学び、楽しみ、発信し、仲間と深め合う授

業の創造」とし、英語でコミュニケーションする目的や場面、状況を意図的に設定し、英語を使って学び、学びながら使いコミュニケーションを楽しみ、さらに英語を学ぼうとする動機付けが高まり、自律的に学習する児童生徒が増え、学習者の英語力および英語発信力が高まる指導法はどういうものか探っていくこととした。

4 記念講演及び対談（配信）

テーマ：「『使える』にシフトする英語教育」の推進に向けて

講演者：敬愛大学英語教育開発センター長・国際学部国際学科

教授 向後 秀明 先生

対談者：千葉大学教育学部教員養成課程英語教育講師 兼 東京女子大学現代教養学部国際英語学科

講師 加瀬 政美 先生

5 各分科会の研究テーマ及び発表者・指導助言者

第1分科会（千葉、神奈川、茨城）

研究テーマ：「言語活動の充実」

英語運用能力と学習意欲の向上を目指した、技能統合型の言語活動に迫る！

会場：木更津市立清川中学校

袖ヶ浦市立昭和小学校

県内提案者：旭市立海上中学校

教諭 多田 洋平

指導助言者：北総教育事務所 海匝分室

指導主事 川名 絵理

（神奈川県）

県外提案者：相模原市立小山中学校

教諭 日野 諒

指導助言者：相模原市教育委員会教育センター

指導主事 関井 隆志

（茨城県）

県外提案者：日立市立多賀中学校

教諭 岡鼻 政憲

指導助言者：茨城県県北教育事務所

指導主事 倉持 かおり

第2分科会（千葉、長野）

研究テーマ：「小中接続」

小中での学びの繋がりを意識した、よりよいコミュニケーションのあり方の探求！

会場：習志野市立第三中学校

県内提案者：松戸市立第五中学校

教諭 浅野 幸絵

松戸市立梨香台小学校

教諭 細川 健太

指導助言者：松戸市教育委員会

学習指導課

指導主事 井原 滋

（長野県）

県外提案者：上田市立塩田中学校

教諭 赤尾 敬太

指導助言者：小諸市立芦原中学校

教頭 半田 尚

第3分科会（千葉、群馬）

研究テーマ：「ICT（端末）活用」

協働的な学びと即興性の推進に迫る！

会場：船橋市立坪井中学校

県内提案者：八千代市立萱田中学校

教諭 崎間 康平

指導助言者：八千代市教育委員会

指導主事 井口 加奈子

（群馬県）

県外提案者：高崎市立群馬南中学校

教諭 富澤 加枝子

指導助言者：高崎市教育委員会

学校教育課

指導主事 星野 浩

第4分科会（千葉、埼玉、栃木）

研究テーマ：「指導と評価の一体化」

学習意欲と英語運用能力を高めるための、効果的な評価尺度の提示とは！？

会場：千葉市立新宿中学校

県内提案者：流山市立常盤松中学校

教諭 影山 元気

流山市立東小学校

教諭 平田 彰

指導助言者：流山市教育委員会教育研究企画室

室長 高畑 佐文

（埼玉県）

県外提案者：上尾市立大石南小学校

教諭 高橋 博将

指導助言者：埼玉大学

教授 及川 賢

（栃木県）

県外提案者：さくら市立氏家中学校

教諭 松川 恭子

指導助言者：塩谷南那須教育事務所

副主幹 斎藤 直美

第5分科会（千葉、東京、山梨）

研究テーマ：「学びの環境」

学校と地域の連携によるオンライン交流の効果を探る！

会場：鎌ヶ谷市立第二中学校

県内提案者：鎌ヶ谷市立第二中学校

教諭 石川 了一

指導助言者：東葛飾教育事務所

指導主事 野澤 敬子

（東京都）

県外提案者：葛飾区立奥戸中学校

主幹教諭 田島 大介

指導助言者：葛飾区立上平井中学校

校長 板垣 繁

（山梨県）

県外提案者：甲府市立北東中学校

教諭 伊東 葵

指導助言者：甲州市立松里中学校

校長 辻 純二

千代田区

I. 研究主題

「ICT機器を活用した学習の充実」
ICT活用による学習活動の効果や効果的
指導手順、方法を検証することによって、
個別最適化学習、協働学習の充実を図る
ために、共同で研究を行った。

II. 研究の経過

◇研究授業

講 師 東京都中学校英語教育研究会長
葛飾区立常盤中学校長
平岡 栄一 様

第1回

日 付：6月12日（水）
会 場：千代田区立麹町中学校
概 要：登場人物のセリフを指定の表現を
用いて、考える。

ICTの活用：表現の習熟、協働学習

第2回

日 付：9月18日（水）
会 場：神田一橋中学校
概 要：関係代名詞を用いて、自分の好き
なものや人について説明する。

ICTの活用：音読チェック機能の活用

III. まとめ／成果と課題／その他 等

- ・ICT機器の活用により、一斉で行っていた既存活動が個別最適化されることで、各生徒の習熟に応じて学習内容の変化を与えるとともに、活動時間の短縮が行われ、その後の応用活動に時間を多く充てることができた。
- ・ICT機器で使えるアプリ、ソフトの音声確認機能を活用することにより、各生徒の音声確認がより容易に行うことができ、さらに生徒自身、自身の発音課題を把握でき、効果的な学習を進められた。

（麹町中学校主幹教諭 駒澤 正人 記）

中央区

I. 研究主題

「話すこと（やりとり）の技能向上を意
識した指導の工夫と実践」

II. 研究の経過

◇4/10（水）

教育会一斉部会
組織・研究主題・活動予定の決定

◇6/26（水）

ALT 紹介・Speaking Test 日程調整

◇9/4（水）

講演会
『新学習指導要領に即した指導と評価』
講 師：都留文化大学 東京女子大学
非常勤講師 本多 敏幸 先生

◇10/9（水）

研究授業指導案検討

◇11/13（水）

研究授業
授業者：石川 裕紀 主幹教諭
（佃中学校）
内 容：NEW CROWN English Series 1
Lesson 6 Discover in Japan
講 師：調布市立第八中学校
指導教諭 加藤 真由子 先生

◇1/22（水）

研究のまとめ（収録原稿作成）

◇2/12（水）14：30～ 研究報告会

（晴海中学校主任教諭 宇内 祐子 記）

港

区

I. 研究主題

「協働的な学びの充実 ～言語活動・ICTの効果的な活用～」

II. 研究の経過

◇令和6年6月5日(水) 14:30～16:30

講 話 「生徒をActive Learnerにする
～ICT教材三種と発言語彙リスト
問題集～を使って」

講 師：愛知淑徳大学 交流学部
非常勤講師 北原 延晃 様

会 場：港区立六本木中学校 地下1階
多目的ホール

◇令和6年9月4日(水) 14:00～16:30

研究授業「シンガポール修学旅行における
インタビュー活動のまとめ及び発表」

授業者：飯塚 由樹子 教諭

会 場：港区立港南中学校 3階
国際理解教室

◇令和6年11月6日(水) 13:30～16:45

「令和6年度港区立中学校英語発表会」

会 場：赤坂区民センター

III. まとめ / 成果と課題 / その他 等

研究テーマ「協働的な学びの充実～言語活動・ICTの効果的な活用～」

北原 延晃 先生の講義から学んだこと

①復習を徹底して行う。全員ができるようになるまで復習する時間を用意し、低位の生徒を出さない。

②帯活動を充実させ、教室内で反復の機会を与えて練習を促し、学習に自立性を促す。

③生徒同士の協働的な学習を増やし、「学校で学習する意義」を感じさせる。

さらに北原先生が制作したICT教材を複数紹介していただいた。

「ワクワクペアワーク 1年2年3年」

「じゃれマガカルチャー」

「わくわくナルホド英文法 1年2年3年」

(高陵中学校教諭 細野 将司 記)

新

宿

区

I. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びの実践と授業改善」

①様々な対話活動を通して、「やり取り」の力を育成する指導

②生徒用タブレット端末を効果的に活用した指導

II. 研究の経過

◇5月8日 春季一斉部会

組織作り、研究テーマと活動計画決定

◇7月30日 夏季一斉部会

①講 義：「対話活動を通じた授業デザインと教科書の活用方法」

講 師：東京都立両国高等学校・附属
中学校 主任教諭
壽原 友理子 先生

②英語学芸発表会に向けて

◇8月2日 新宿区立中学校英語学芸発表会

◇9月24日 第1回研究授業

授業者：渡井 さや香 主任教諭
(四谷中学校)

内 容：New Horizon English Course 1
Unit 6

“A Speech about My Brother”

講 師：元 東京都立両国高等学校・
附属中学校 杉本 薫 先生

◇10月2日 秋季一斉部会

①英語学芸発表会の振り返り

②来年度へ向けて

◇3学期 第2回研究授業(詳細未定)

授業者：伊藤 由太 主任教諭
(西早稲田中学校)

(西新宿中学校教諭 平野 光 記)

文 京 区

I. 研究主題

「主體的・対話的で探究的な学びを引き出すための英語活動の在り方
～AIの活用、評価を視野に入れて～」

II. 研究の経過

- ◇5月2日 区中研一斉部会
(会場：本郷台中)
 - ①研究テーマ、活動方針の決定
 - ②各係の選出 など
 - ◇8月7日 夏季ワークショップ
自主研修会 (会場：文林中)
 - ①授業における音読指導の位置づけ・音読指導法
発表者：溪内 明 主任教諭
(本郷台中)
 - ②理解をまとめ、深めるためのワークシートの活用
発表者：石川 理絵 教諭 (第十中)
 - ③ICT機器を活用した授業
発表者：新井 正秀 主任教諭 (音羽中)
 - ◇11月7日 研究授業 (会場：本郷台中)
「教科書1パートの導入・音読・
言語活動への橋渡し」
授業者：溪内 明 主任教諭
(本郷台中)
 - ◇全国英語教育研究団体連合会参加
新井 正秀 主任教諭 (音羽中)
 - ◇1月21日 一斉教科部会
(会場：本郷台中)
 - ①報告：全英連大会・研究授業・夏季自主研修会・ラウンドシステム実践報告
 - ②改訂検定教科書研修会
講師：光村図書出版
- ## III. まとめ
- 各教員が普段から実践している活動について共有し、各校の英語活動をアップデートすることができた。

(第九中学校主幹教諭 丸橋 秀哉 記)

台 東 区

I. 研究主題

「思考力・判断力・表現力を育成する指導の工夫と授業の実践」

II. 研究の経過

- ◇4月10日 区中研一斉部会
 - ・組織編制
 - ・研究主題の決定
 - ・年間活動計画
- ◇5月8日 区中研総会
- ◇11月6日 区中研一斉授業
授業者：忍岡中学校
佐久間 幹彦 主任教諭
単元名：NEW CROWN English Series 3
Lesson 5 “I Have a Dream”
講 師：東京学芸大学准教授
白倉 美里 先生
- ◇1月15日 区中研部会
 - ・各校の取組の発表
 - ・年間の活動のまとめ

III. まとめ

今年度の研究授業では、小学校の先生方にも参加していただき、思考力・判断力・表現力を育成するための指導について、活発な意見交換が行われた。小学校の先生方に中学校の英語教育をより知ってもらうだけではなく、小学校の英語教育に対しても理解を深めることができた。今後、小学校と中学校がより連携を深め、台東区の英語教育を見通しをもって行い、より一層充実させていきたい。

(浅草中学校主幹教諭 岸 卓朗 記)

墨 田 区

I. 研究主題

「教科書の内容を深め、自分の考えを発信し、やりとりする力の育成」

II. 研究の経過

- ◇ 4月17日 区中研一斉部会
 - ①組織づくり
 - ②研究テーマの決定
 - ③年間活動計画の検討
 - ④研究授業実践校の決定
 - ⑤ESAT-J、TGGについて
 - ⑥海外派遣、教員研修について
- ◇ 6月26日 第1回研究授業
授業者：窪田 良行 主任教諭
(錦糸中学校)
単元名：1年 Unit 1
New School, New Friends
講 師：白百合女子大学教授
山野 有紀 先生
- ◇ 8月28日 区中研一斉研究日
講 師：白百合女子大学教授
山野 有紀 先生
講 演：生徒の英語で自分の考えを深め
やりとりする力を高めるうえで
の言語活動の工夫
- ◇ 11月27日 第2回研究授業
授業者：山崎 隆義 主任教諭
阿部 秀行 教諭
成田 衣里 教諭
(堅川中学校)
単元名：2年 Let's Talk 3
電車の乗りかえ一道案内—
講 師：白百合女子大学教授
山野 有紀 先生
- ◇ 2月12日 区中研発表会
(墨田中学校主任教諭 久保田 航 記)

江 東 区

I. 研究主題

「生徒の主體的な態度を育成する指導の工夫と評価」

II. 研究の経過

- ◇ 6月5日 区中研一斉部会
 - ・内 容 組織作り、年間活動計画
- ◇ 6月19日 教科交流授業研究の日
深川地区
 - ・授業者：片山 祥佳 教諭
(深川第六中)城東地区
 - ・授業者：中村 陸 教諭
(大島中)
- ◇ 9月4日 区中研英語部研究授業
 - ・授業者：佐々木 孝紀 主任教諭
(第三亀戸中)
- ◇ 10月16日 教科交流授業研究の日
深川地区
 - ・授業者：石上 晴菜 教諭
(深川第五中)城東地区
 - ・授業者：矢嶋 光司 教諭
(第二砂町中)
- ◇ 11月1日 江東区英語学芸会
 - ・会 場：江東区文化センター
 - ・内 容：Speech、Others、Playの部
 - ・Speechの部 優勝校の辰巳中学校が東
京都英語学芸大会に出場
- ◇ 12月4日 区中研英語部研究授業
 - ・授業者：村田 萌愛 教諭
(第二砂町中)
- ◇ 2月5日 区中研一斉部会
 - ・内 容：1年間のまとめ
(第三砂町中学校主任教諭 多田 翔 記)

品川区

I. 研究主題

「小中連携による英語教育の推進」

II. 研究の経過

◇分科会での勉強会

低学年・中学年・高学年・7・8・9年の6グループに分かれ、新たに入区した先生方を交えて、品川区で独自に実施している英語教育や各先生方の授業教材を共有する。

◇年5回の公開授業（小学校含む）

JETとHRTで実施する前期課程の授業を後期課程の英語科教員が学ぶ機会をつくる。また、前期課程の英語科担当者も後期課程の授業を見学し、担当した児童生徒の成長や指導内容の連携についても確認する。

授業者：金子 理香 教諭

- ・ 単元：Here We Go! English Course 3
Unit 4 AI Technology and Language
- ・ 半年後を見据えた授業を意識し、生徒にとって、日常に当てはまる適切な場面設定とは何かを常に考え授業を展開している。

講師：千葉大学教授 本田 勝久 先生

- ・ 句と関係詞の重要性
- ・ 文法、音の大切さ、単語の精査
- ・ 「学びに向かう力」「人間性」の部分の育み
 - 「読みに不安がない」「量に負けない」「あいまいさに耐える」
- ・ 「受信」から「発信」
 - 日本のこととグローバルなことを双方向的に考える。
- ・ 人間性と感受性
 - 人間は感性を磨いてAIを引き離す。

(八潮学園主任教諭 石田 千尋 記)

目黒区

I. 研究主題

「ICTを活用した指導の工夫～より適正な評価材料を求めて～」

II. 研究の経過

◇4月24日 組織編成、研究テーマ・研究計画決定

◇5月8日 ALTとのティームティーチング、適正な評価規準、ロイロノート等を活用した指導、デジタルドリルの活用について

◇7月3日

・ 研究授業

授業者：山田 郁子 主任教諭

高宮 直子 教諭

単元名 NEW HORIZON 1

Stage Activity 1

“All about Me Poster”

・ 研修

テーマ「ICTを活用した指導の工夫～より適正な評価材料を求めて～」

- 1 「主体的に学ぶ力」をどう見取りどう評価するか（評価材料の妥当性）
- 2 効果的なICT活用の実践例

◇10月2日 目黒区スピーチコンテスト

◇12月4日 講演（ワークショップ）

「より適正な評価と評定について 特に主体的に学ぶ力をどう育成し評価するか」

講師：文部科学省初等中等教育局

主任教科書調査官

池田 勝久 先生

◇2月5日 発表分科会

◇3月5日 発表全体会

III. まとめ／成果と課題

学習者が主体的に自立した学習をすすめる、自己調整する力を高めるため、教員は見通しをもった手立てを考え、デザインやコーチングを行うことが不可欠である。
(第十一中学校主幹教諭 永守 貴子 記)

大 田 区

I. 研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成」

II. 研究の経過

- ◇ 4月10日 第1回部会(田園調布中学校)
部員自己紹介、組織編成、研究主題、年間活動計画、研究授業者、連合学芸会等
- ◇ 10月2日 研究授業(大森第四中学校)
授業者 中野 峻佑 主任教諭
講 師 都留文科大学文学部非常勤講師
本多 敏幸 先生
- ◇ 11月6日 連合学芸会(英語の部)
会 場：大田区民プラザ
発 表：スピーチ27名、プレイ1校
- ◇ 12月～2月 研究紀要作成
- ◇ 1月29日 研究授業(志茂田中学校)
授業者：丸山 凌侑 主任教諭
講 師：岐阜大学教育学部准教授
瀧沢 広人 先生
- ◇ 引き続き 第2回部会
今年度の総括及び来年度の予定
- ◇ BULLETIN -OTA English Today-
「紀要」を年間の研究記録として毎年発行している。今年度は第34号である。

III. 今年度の部員数：103名

(御園中学校教諭 乾 宏樹 記)

世 田 谷 区

I. 研究主題

『せたがや探究的な学びの実践
～ICTの活用をとおして～』(2年目)

II. 研究の経過

- ◇ 5月8日 世田谷区立中学校教育研究会
役員会(梅丘中学校)
 - ◇ 6月5日 前期教育研究会(梅丘中学校)
テーマ：「研究主題について」
 - ◇ 10月8日 国立私立交流研究授業
(東深沢中学校)
授業者：小林 隆介 主幹教諭
題 材：New Horizon 2 Unit 5
講 師：英語“ワクワク授業”研究所
代表 中嶋 洋一 先生
 - ◇ 11月6日 後期教育研究会
第35回世田谷区立中学校
英語スピーチコンテスト
(成城ホール)
- ## III. まとめ
- 研究紀要作成

(芦花中学校主任教諭 関根 貴子 記)

澁谷区

I. 研究主題

「AIを活用した外国語科における探究的な学び」

II. 研究の経過

◇5月1日（水）一斉部会

- ・組織編制
- ・研究主題、活動計画決定

◇10月2日（水）指導案検討会

研究授業者の指導案について協議

◇11月1日（金）研究授業

授業者：上原中学校

関谷 知美 主任教諭

単元名：New Horizon English Course 2
Unit 5 Universal Design

講師：上智大学文学部

英米文学教授

池田 真 先生

◇2月12日（水）区中研発表会

III. まとめ／成果と課題／その他 等

今年度は授業内にAI英会話アプリ「ELSA for School」を導入し、生徒の発音を向上させることを目標に、英会話の機会を設けた。生徒の学習状況を把握し、苦手分野の指導などに今後も生かしていく。

（上原中学校教諭 中田 悠里 記）

中野区

I. 研究主題

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫」

～「話す」技能を高める授業の実践および指導と評価の一体化～

II. 研究の経過

○4月24日 一斉部会

研究主題の検討と決定

○6月12日 教科優先日

研修会の実施

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

講師：中野東中学校

指導教諭 井上 智絵 先生

○10月23日 教科研究日

研究授業の実施及び研修会

授業者：第五中学校 牧野 泰典 教諭

単元：SUNSHINE ENGLISH COURSE 1

Program 6 Interact

好きな人物や物について紹介しよう

講師：中野東中学校

指導教諭 井上 智絵 先生

「言語活動を通じた授業作り」

〈大切にすること〉

*生徒に見通しをもたせ、意識して言語活動に取り組みさせる。

*生徒と英語を用いて多様なコミュニケーションをとりながら授業を進め、生徒の言語活動をいかに増やすかを考える。

○11月3日 連合文化発表会

なかのZEROホールにて12名が出席し、Presentation・Speechを発表

○12月 紀要作成

○2月19日 研究発表会

講師：都留文科大学

非常勤講師 本多 敏幸 先生

（第七中学校主任教諭 高山 博子 記）

杉 並 区

I. 研究主題

「学習指導要領に即した指導と評価の一体化を目指して」

II. 研究の経過

◇夏季研修会 8月23日

会 場：宮前中学校

内 容：思考力・判断力・表現力の指導と評価（ループリック）の資料を持ち寄って今までの実践や9月からできることのアイディアを共有する。

◇研究授業および研究協議Ⅰ 6月5日

授業者：富士見丘中学校

瀧本 廣樹 教諭

単元名：Unit 2 Unit Activity “My History of …” (NEW HORIZON English Course 3)

講 師：東京都中学校英語教育研究会・研究部 副部長 筑波大学附属中学校 教諭 高杉 達也 先生

◇研究授業および研究協議Ⅱ 10月6日

授業者：高井戸中学校

高空 あゆみ 主任教諭

単元名：Unit 4 Homestay in the United States (NEW HORIZON English Course 2)

講 師：東京都中学校英語教育研究会・研究部 副部長 筑波大学附属中学校 教諭 高杉 達也 先生

◇杉並区英語学会 11月2日

内 容：Speech, Skit

会 場：勤労福祉会館

(宮前中学校主任教諭 松田 佐知子 記)

豊 島 区

I. 研究主題

「生徒の発信力を高める指導の工夫～即興で話す力の育成を目指して～」

II. 研究の経過

◇4月17日 区中研一斉部会

【明豊中学校】

- ・研究主題の決定
- ・研究授業担当校の決定

◇11月6日 区中研英語部会

【巢鴨北中学校】

*講演会・ワークショップ

「英語で発信し続ける3年間

～発話を促し発信を支えるもの～」

講 師：元東京都立両国高等学校・附属中学校 杉本 薫 先生

◇1月15日 区中研英語部会

【駒込中学校】

*研究授業

授業者：駒込中学校

熊木 美誉 教諭

単元名：Here We Go!

English Course 1

Unit 7

New Year Holidays in Japan

講 師：元東京都立両国高等学校・附属中学校 杉本 薫 先生

III. まとめ

講演会やワークショップ、研究授業を通して、研究主題について考えを深めることができた。今後も実践的な指導法など情報を共有し、授業に活かしていく。

(明豊中学校主任教諭 飯山 恵子 記)

北

区

I. 研究主題

スピーキング力向上、一人一台端末の活用等をテーマに、各校で研究主題を設定した。

II. 研究の経過

- ◇4月17日（水）区教育研究会
 - ・組織づくり
 - ・今年度の活動計画
 - ・研究テーマ決め
- ◇11月1日（金）北区連合学芸会
 - ・英語スピーチ（各校代表1名出場）
 - ・第1回、第2回運営委員会開催（7月14日、10月17日）
- ◇11月13日（水）研究授業
授業者：本田 大輔 主幹教諭
単元名：NEW HORIZON English Course 3
Stage Activity 3
“Let’s Have a Mini Debate”
講 師：元関西外国語大学教授
英語“ワクワク授業”研究所代表
中嶋 洋一 先生
- ◇1月15日（水）研究授業
授業者：伊東 孝元 教諭
単元名：NEW HORIZON English Course 1
Unit 10
“Winter Vacation”
講 師：北区外国語教育アドバイザー
福井 正仁 先生

III. まとめ

北区連合学芸会英語スピーチへ各校代表者が参加する体制が確立され、連合行事の質の高まりを感じた。研究授業ではディベートやリテリングをテーマに意欲的な実践が紹介され、質の高い研修となった。

（都の北学園教諭 藤原 采音 記）

荒

川

区

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」
～世界につながる荒川の英語教育～

II. 研究の経過

- ◇4月10日 組織づくり、研究主題決定
- ◇7月10日 講演&ワークショップ
「高校から降りてきた文法事項をどう導入するか」
講 師：元上智大学文学部非常勤講師、
愛知淑徳大学交流文化学部非常
勤講師 北原 延晃 先生
- ◇9月11日 研究授業 第三中学校
授業者：能美 真弓 主幹教諭
末永 譲 教諭
湧井 泉美 教諭
単 元：New Crown 2 Lesson 4 Uluru
講 評：北原 延晃 先生
- ◇10月25日 区連合英語発表会
場 所：サンパール荒川
参加校：10校
最優秀生徒：第一中学校
東京都英語学芸大会に出場
- ◇11月13日 「北原先生による模擬授業」
（小中合同部会）
講 師：北原 延晃 先生
- ◇1月15日 小中合同部会
研究授業：瑞光小学校
授業者：高島 文香 教諭
単 元：おすすめの場所を紹介しよう
（区小学校Lesson Plan Unit 3）
講 評：聖学院大学人文学部児童学科
特任教授 小川 隆夫 先生
（第五中学校主任教諭 砂田 健太 記）

板 橋 区

I. 研究主題

「ICTの効果的な活用、生徒が端末を活用する授業の工夫」

II. 研究の経過

◇4月17日 区中研一斉部会（板橋一中）

◇7月8日 研究授業（中台中）

授業者 守谷 実紀 主任教諭

講 話 「英語授業における効果的な端末の活用」

講 師 東京家政大学人文学部英語コミュニケーション学科教授
太田 洋 先生

◇8月2日 夏季ワークショップ
（板橋一中）

講 話 「書くことの指導と評価」

講 師 玉川大学文学部教授
工藤 洋路 先生

◇11月2日 「英語のつどい」
（高島平区民館ホール）

◇11月6日 区中研一斉研究授業
（赤塚二中）

授業者 伊藤 健 主任教諭

講 話 「『令和の日本型学校教育』を踏まえた英語授業～ICTの効果的な活用、生徒が端末を活用する授業の工夫」

講 師 明海大学教職課程センター教授
西貝 裕武 先生

◇2月6日 区中研研究発表会

区中研収録原稿執筆校

①板橋第一中学校

②西台中学校

③桜川中学校

④高島第二中学校

（西台中学校主幹教諭 金井 大悟 記）

練 馬 区

I. 研究主題

将来、子供たちが世界を視野に新たな時代を切り拓いてくために、社会の様々な課題を主体的に解決していく力や多様な人々と協働する力、新しい価値を創造する力等、英語力を基盤とした様々な資質・能力を身に付けることが必要である。そのために、基礎・基本の定着を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

II. 研究の経過

◇5月15日 区中研一斉部会

◇6月26日 区中研英語部

ブロックごとの研究授業

・原 冬威 教諭（旭丘中）

・安部 暖 教諭（光が丘三中）

・中村 大樹 教諭（石神井西中）

◇7月26日 夏期研修会

（練馬区役所 石神井庁舎）

「教科書の活用」

講 師：東京家政大学教授
太田 洋 先生

◇9月28日 英語学芸会

（練馬区生涯学習センター）

都大会出場校：石神井西中

“The Legend of the Green Forest”

◇11月13日 区中研研究授業（関中）

授業者：道姓 千晶 主任教諭（関中）

ALT Zainabu Hussein

対 象：中学2年生

単 元：Work Experience

（Here We Go! English Course 2）

内 容：東京のおすすめ観光スポットを紹介する英文を書くことができる。

講 師：東京学芸大学教授

高山 芳樹 先生

（中村中学校主幹教諭 三崎 浩介 記）

足 立 区

I. 研究主題

「足立スタンダードに基づく指導と評価の一体化～五領域の各目標を達成するために～」

II. 研究の経過

- ◇4月17日
一斉部会 組織及び活動計画案提示
- ◇6月12日 役員会 研修会準備
- ◇7月10日 研修会
「表現力向上に効果のあった指導に関するディスカッション」
- ◇9月11日
小中合同研修会〈小学校主催〉研究授業
- ◇10月9日
小中合同研修会〈中学校主催〉研究授業
授業者：林 花菜子 教諭
(千寿桜堤中学校)
単元名：NEW HORIZON English Course 3
Unit 5 “A Legacy for Peace”
講 師：熊本大学准教授
岡崎 伸一 先生
- ◇10月24日 連合英語学芸会
Speechの部 第1位 新田中学校
- ◇12月11日 研修会
「『知識・技能』『思考・判断・表現』を測るテストのあり方について」
講 師：教科指導専門員 石井 亨 先生
- ◇1月29日 一斉部会 研究授業
授業者：根岸 昭子 教諭
(入谷南中学校)
単元名：NEW HORIZON English Course 2
Unit 6 “Research Your Topic”
講 師：熊本大学准教授
岡崎 伸一 先生
(第四中学校主任教諭 上尾 栄美子 記)

葛 飾 区

I. 研究主題

「学習指導要領の趣旨に則った適正な評価評定について」

II. 研究の経過

- ◇5月7日 葛中研英語研究部会
組織・研究テーマ・事業計画案提示
- ◇6月5日 葛中研英語研究部会
講 演：生徒のパフォーマンスを高めるための授業実践
講 師：教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 鈴木 悠平 先生
- ◇7月31日(水)～8月2日(金) 2泊3日
葛飾区中学生イングリッシュキャンプ
(於：British Hills)
葛飾区内中学校から96名の生徒が参加
- ◇10月7日 第39回葛飾区立中学校英語スピーチ&プレイコンテスト (於：高砂地区センター) ※本年度はスピーチ部門24名、レシテーションの部2名が参加
- ◇10月17日 葛中研英語研究部会研究授業
授業者：葛飾区立大道中学校
松本 緑 主任教諭
講 演：生徒の英語によるパフォーマンスを高めるために
講 師：葛飾区立上平井中学校長
板垣 繁 先生
- ◇2月4日 葛中研英語研究部会研究授業
授業者：葛飾区立双葉中学校
森田 弘美 教諭
加藤 正和 教諭
石田 るか 教諭
- ◇3月 役員会
(金町中学校教諭 高山 翔 記)

江戸川区

I. 研究主題

「Speaking 活動等を通して主体的にコミュニケーションを図る資質・能力の育成」

II. 研究の経過

◇5月8日(水) 区中研一斉研究日

講演

「ALTの効果的な活用について」

講師：カミラ ハリス 様

(インタラックALT管理責任者)

◇8月28日(水) 区中研一斉研究日

ワークショップ「ALTとの授業について」

講師：カミラ ハリス 様

(インタラックALT管理責任者)

及び ALTの先生方

◇11月6日(水) 区中研一斉研究日

1. 研究授業

Sunshine English Course 2

Program 6 “Live Life

in True Harmony”

授業者：松村 祐輔 主任教諭

(松江第五中学校)

2. 指導講評・講演

講師：西村 秀之 先生

(玉川大学准教授)

◇江戸川区学力向上プロジェクト

英語指導力アップ講座

(参加希望者による自主的な研修会)

7月30日(火) 14:30~16:30

10月10日(木) 14:30~16:30

2月4日(火) 14:30~16:30

III. まとめ

ALTとのワークショップや研究授業、講演会と、1年間で様々な内容の研修を実施することができた。

(小岩第四中学校長 鈴木 訓文 記)

八王子市

I. 研究主題

「スピーキング能力の向上を目指した言語活動の工夫～ICTの効果的な活用を通じて～」

II. 研究の経過

◇近年、東京都ではスピーキングテストが導入され、3年間で継続的かつ段階的に話すことの指導を充実させていくことが大切になっている。八王子市では全中学3年生にEnglish centralというサービスで提供され、ICTを活用したスピーキング能力の向上を目指した指導力も必要となっている。そこで今年度、上記のテーマで研究授業を行い、生徒の英語力の向上を目指した。

第1ブロック

授業者 高橋 友依 教諭 (第五中学校)

講師：東京外国語大学教授

根岸 雅史 先生

第2ブロック

授業者 佐藤 真雄 教諭 (川口中学校)

講師：国士館大学教授 五十嵐 浩子 先生

第3ブロック

授業者 中島 颯太 教諭 (陵南中学校)

講師：順天堂大学 佐藤 ひろみ 先生

第4ブロック

授業者 小川 史哲 教諭 (別所中学校)

講師：都留文科大学教授 本多 敏幸 先生

III. まとめ

自分の好きなものを即興で伝え合うこと、写真の内容を伝えるために考えを整理して説明し合うことを目標に授業が行われた。ICTの具体的な活用方法として、タブレットを活用して自分の好きなものを提示しながら伝え合うこと、教科書や自作の様々な写真を提示し説明し合うことが取り入れられていた。スピーキング力を高めるためにやり取り中心の授業を行うこと、毎日少しずつでも話すことや書くことを取り入れ、伝え合う場を設定することの大切さについて再考することができた。

(加住中学校主幹教諭 菊池 敦子 記)

立 川 市

I. 研究主題

「社会の変化に対応し、学び続ける生徒の育成を目指して」

II. 研究の経過

◇5月8日 第1回研究部会

◇8月22日 第2回研究部会

ワークショップ

講 師：渋谷区立松濤中学校

主幹教諭 橋本 晋作 先生

◇11月6日 第3回研究部会

研究授業・協議

授業者：立川第一中学校

田中 宣城 教諭

単元名：New Horizon English Course 1

Stage Activity 2 My Hero

講 師：文教大学国際学部

教授 阿野 幸一 先生

講 演：「教科書を活用した指導と評価のために一本日の研究授業を中心として」

◇2月19日 全体研修会

III. まとめ

(1) 幹となる授業デザインを構築することが大切である。

- ①アウトプット、②気付き、
- ③インプット、④インテイク、
- ⑤アウトプット

(2) 教科書の内容の理解を深めながら文法の理解を深めることが大切である。

(3) CANNOT-DO LISTでなくCAN-DO LISTであることを再認識することが大切である。

(立川第二中学校 主幹教諭 木下 泰孝 記)

武 蔵 野 市

I. 研究主題

「言語活動を通して、主体的、協働的に学び続ける児童・生徒の育成」

II. 研究の経過

◇4月24日 武教研総会・組織編成

◇5月25日 活動計画、研究主題検討

◇6月23日 小学校部会（事例検討）

◇7月3日 小学校部会（実践例共有）

◇10月9日 研究授業 I

授業者：花房 麗奈 主任教諭(桜野小学校)

対 象：第6学年2組

単 元：Here We Go! 5

Unit 8 This is my town.

講 師：古館 祥子 先生、諏訪 有都穂 先生

(市講師・元武蔵野市外国語アドバイザー)

◇11月13日 小中部会(事例検討・情報共有)

◇12月4日 小学校部(授業研究考察・情報共有)

◇1月15日 研究授業 II

授業者：根岸 桜 教諭

杉原 梢 教諭

(第一中学校)

対 象：第2学年CD組(少人数クラス)

単 元：New Crown English Series 2

Lesson 7 Get Part 1

“Rakugo Goes Overseas”

講 師：山本 崇雄 先生

(横浜創英中学高等学校)

III. 成果と課題

成果として以下の重要性を確認できた。①授業内で児童・生徒の主体的な学びを促すため、目的・場面・状況の設定を明確にし「伝えたい」思いを喚起する指導の工夫を行う。

②相手に伝わるように話すことを意識させることにより、既習表現の活用や Try & Errorの経験を促し、協働的な学びを継続的に設定する。

今後の課題として、スローラーナーへの配慮や対応、指導の工夫について、今後も小中で共有していく必要がある。

(第二中学校主幹教諭 宇都宮 佐和子 記)

三 鷹 市

I. 研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成 ～主体的にコミュニケーションを図るための言語活動の工夫～」

II. 研究の経過

- ◇4月17日
令和6年度鷹教研英語研究部年間計画作成、研究授業担当者決定
- ◇5月8日
小学校：研究授業指導案検討
中学校：指導と評価方法の検討
 - ・ALTとの指導方法
 - ・パフォーマンステスト
- ◇6月12日 研究授業（小学校）
授業者：連雀学園三鷹市立南浦小学校
宮脇 勇氣 教諭
- ◇9月4日 研究授業（中学校）
授業者：にしみたか学園三鷹市立第二中学校
森田 いづみ 教諭
ALT Aaron Thomas Walker
Here We Go! English Course 1
Unit 4 Our New Friends
- ◇10月2日 講演会
講 師：明海大学教育課程センター・地域学校教育センター教授
西貝 裕武 先生
テーマ：「令和の日本型学校教育」を踏まえた英語教育
- ◇1月15日 研修会
講 師：(株)リンク・インタラック東京支店 橋本 岳樹 様、市内小中学校で勤務されているALT
- ◇2月5日 鷹教研合同研修会
2教科、1領域の研究発表

(第七中学校主任教諭 大友 瑞紀 記)

青 梅 市

I. 研究主題

「『個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実』を実現する指導の研究」
—ICTを有効に活用した指導の研究—

II. 研究の経過

- ◇第1回研究部会（5月8日）
 - ・主題の設定、共有
 - ・研究計画の作成
 - ・協議等
- ◇第2回研究部会（8月30日）
 - ・講演
『(主題に沿った)教科書の活用方法』
講師
東京都立両国高等学校附属中学校
主任教諭 壽原 友理子 先生
 - ・協議、情報交換 等
- ◇第3回研究部会（10月23日）
 - ・研究（検証）授業
『Let's Write 1』(New Horizon 2)
授業者
西中学校 浅田 紗織 主任教諭
 - ・協議、情報交換
 - ・研究のまとめ

III. 成果

- ・研究主題に対する理解が深化するとともに、実践の必要性を再確認した。
- ・授業におけるICTの利活用について、その方法や過程などの知識を得ることができた。また、表現（「話すこと」、「書くこと」）において有効であることも再認識した。

IV. 課題

ICTの活用において、デジタル教科書と他のアクティビティをどのように統合、調整していくか、考えていく必要がある。

(第六中学校校長 岩崎 浩示 記)

府 中 市

I. 研究主題

「ALTとの実践的な授業づくり～生きた英語に触れる機会の充実に向けて～」

II. 研究の経過

- ◇4月17日 部員総会
自己紹介・研究主題・年間研究計画
- ◇5月8日 ワークショップ
「ALTとの実践的な授業づくりについて」
(株) ボーダーリンク様
- ◇8月26日 TOKYO GLOBAL GATEWAY
GREEN SPRINGS 体験会
- ◇9月11日 研究授業
授業者：府中第二中学校
野村 希望 教諭
講 師：東京都教育庁指導部
義務教育指導課統括指導主事
早川 裕之 先生
- ◇10月9日 ワークショップ
「ALTとの実践的な授業づくりについて」
(株) ボーダーリンク様
- ◇11月6日 ワークショップ
「Picture DescriptionとDebateを用いた
授業づくり」(株) ボーダーリンク様
- ◇1月22日 研究授業
授業者：府中第三中学校
下澤 雄介 教諭
講 師：東京家政大学
教授 太田 洋 先生
- ◇2月5日 研究発表会
- ◇3月5日 役員引継ぎ

III. まとめ

Small Talkでの導入やグループワークを中心とした展開例、及び実践例を体験することにより、ALTとのティーミングを通じ、生徒のコミュニケーション能力を高める授業づくりへの意識が高まった。

(府中第四中学校教諭 長谷川 太一 記)

昭 島 市

I. 研究主題

「生徒が主体的にスピーキングに取り組むための授業改善」

II. 研究の経過

- ◇4月17日(水) 総会・教科部会
・部長校
・研究授業校の確認
- ◇5月8日(水) 教科部会
・研究主題の設定について協議
・一校一取組の紹介など情報交換
- ◇9月7日(土)
「第12回中学生英語スピーチコンテスト」
にてスピーチコンテストを実施
- ◇10月9日(水) 研究授業
内 容：研究授業、協議及び講師による
指導講評
授業者：瑞雲中学校
高坂 真由 教諭
末安 真 教諭
佐藤 恵 教諭
単 元：NEW CROWN ENGLISH SERIES 3
Lesson 5 I Have a Dream
講 師：都立白鷗高等学校・附属中学校
主任教諭 高瀬 ひとみ 先生
- ◇2月12日(水) 年度のまとめ

III. まとめ

- ・研究授業を基に、生徒が主体的に発話するための方策について協議した。
- ・スピーキング力向上のため、ESAT-J対策にもなる具体的な授業のアイデアを共有できた。
- ・英語で行う授業、音読練習、3文スピーチなど、生徒の話す力の土台となる活動例を通じた実践的な指導についての知識を深めることができた。

(清泉中学校主任教諭 山本 昌人 記)

調 布 市

I. 研究主題

「生徒の主体的かつ協働的な学びを大切に
にした授業づくり」

～グローバル人材の育成を目指して～

II. 研究の経過

◇5月8日（水）

研究テーマ及び年間研究計画の提案

会 場：第八中学校

◇6月5日（水）

講 演「英語語彙指導の基本」

講 師：東京外国語大学大学院

総合国際学研究院教授

投野 由紀夫 先生

会 場：第六中学校

◇10月2日（水）研究授業・小中合同研修

授業者：西村 優作 教諭

講 師：愛知淑徳大学交流文化学部・元上

智大学文学部英文科非常勤講師

北原 延晃 先生

会 場：第六中学校

◇11月6日（水）研究授業・小中合同研修

授業者：小林 翔太 教諭

会 場：第一小学校

◇1月15日（水）

令和7年度用教科書について、研究のまとめ

会 場：第六中学校

III. 成果と課題

英語部会で学んだことを授業や教材研究に生かし、授業改善を図ったことで生徒にも変容がみられた。子供たちが他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と協力・協働しながら課題を解決する力を育てるために、今後も研究と実践を積み重ねていく。

（第六中学校主幹教諭 津田 瑠衣 記）

町 田 市

I. 研究主題

「自己表現力の育成を図る指導」

II. 研究の経過

◇4月10日 第1回一斉部会

会 場：町田市立第一中学校

内 容：組織づくり

研究主題の確認

年間活動の確認

講 演

講 演：「マインドマッピングについて」

講 師：元関西外国語大学教授

（公財）日本英語検定協会派遣講師

中嶋 洋一 先生

◇7月31日 夏季研修会

会 場：町田市立堺中学校

講 演：「自己表現の育成を図る指導～思考ツール(マッピング)を使って～」

講 師：元関西外国語大学教授

（公財）日本英語検定協会派遣講師

中嶋 洋一 先生

◇11月12日 第2回一斉部会

会 場：各校Googleミートによる参加

講 演：「マッピングやALTとの授業の構成について」

講 師：元関西外国語大学教授

（公財）日本英語検定協会派遣講師

中嶋 洋一 先生

◇1月29日 第3回一斉部会

会 場：町田市立堺中学校

内 容：研究のまとめ

次年度の主題設定

講演

講 師：元関西外国語大学教授

（公財）日本英語検定協会派遣講師

中嶋 洋一 先生

（堺中学校主任教諭 小林 秀子 記）

小金井市

I. 研究主題

「技能統合型の授業-inputからoutputへ」

II. 研究の経過

◇各校の授業実践について共有

発言しやすい空間作りについて学び、技能統合型授業への共通理解を図った。

◇10月の研究授業

Readingを学びのベースとし、学びが他技能へ発展する形の授業を行った。また、授業内で扱った教材についての共有も行った。

◇技能統合型の授業と評価について

技能統合型の授業の実践と成果を各校から持ち寄った。その中で特に、定期考査においてどのように技能統合的な学びを評価するのかを検討した。

III. 成果と課題

指導と評価は表裏一体であるべきであるという考えから、技能統合的な授業には技能統合的な評価が必要であるという課題が挙げられた。よって、問題ごとに評価の観点が設けられている現在の定期考査や、その他の評価材料について、一層の検討を重ねる必要があると考える。また、研究主題を「技能統合的な授業」としたが、今後は生徒の目線に立った「技能統合的な学び」という観点をもつ必要があるとも考えた。授業の主語を教員から生徒に変えていくことで、また新たな発見があるだろうと考える。

今後は教員間での模擬授業を繰り返しながら指導・学びと評価の一体化を図っていく。指導の最適解は地域性や環境、時代の変化によって流動的であると理解しつつ、生徒が変化の速い社会で生き抜く力を培うために、これからも研究を重ねていく。

(小金井第一中学校主任教諭 宮内 瞭 記)

小平市

I. 研究主題

「英語科の特性を生かした主体的・対話的で深い学びの実現と評価」

①「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の工夫

②ICTを活用した指導の工夫

II. 研究の経過

◇4月24日 教科等研究会総会

会 場：小平第一中学校

内 容：組織づくり、研究主題の設定
研究計画の作成

◇7月31日 夏季研修会

会 場：上水中学校

講 師：国土館大学教授
五十嵐 浩子 先生

講 演：主体的・対話的で深い学びの評価について

◇9月11日 研究授業

会 場：小平第一中学校

授業者：大田和 希望 教諭

対 象：中学1年生

単 元：New Crown 1 Lesson 4

“My Family, My Hometown”

講 師：国土館大学教授

五十嵐 浩子 先生

III. まとめ

第1回の教科部会での各校を交えたグループ協議を行う中で、適正な評価・評価について多くの意見や悩みが共有された。特に「主体的に学習に取り組む態度」の見取りについて課題が上がり、研究主題とした。

今年度は、国土館大学教授の五十嵐先生に研修会や研究授業で継続してご指導いただき、各部員の課題解決に資する研究を行うことができた。

(上水中学校主任教諭 坪田 裕希 記)

日 野 市

I. 研究主題

「思考力・判断力・表現力の育成を支えるICTの活用」

II. 研究の経過

- ◇ 5月1日 総会（四中）
- ◇ 6月26日 授業研究（一中）
授業者：阿部 明美 教諭（二中）
Here We Go! 2 Unit 2
「好きなことやしたいことを伝え合おう」
- ◇ 8月21日 夏季集中研修（一中）
講 師：都留文科大学講師
本多 敏幸 先生
- ◇ 9月4日 小中合同授業研究（一中）
授業者：山本 拓美 教諭（一中）
講 師：調布市立第八中学校 指導教諭
加藤 真由子 先生
- ◇ 10月2日 小中合同授業研究（東光寺小）
授業者：小澤 正史 主任教諭（東光寺小）
講 師：日野市教育センター
若手教員育成指導員
竹村 きよみ 先生
- ◇ 11月27日 授業研究（一中）
授業者：小林 祐作 教諭（七生中）
Here We Go! 2 Unit 6
「Tinaに必要なもの」
- ◇ 2月12日 研究発表会

III. まとめ

本研究を通じて、思考力・判断力・表現力を育成するために教科書本文の活用をさらに進めることが課題だと感じた。
(日野第一中学校主任教諭 宮崎 太樹 記)

東 村 山 市

I. 研究主題

「指導と評価の一体化」の理解の深化～即興性を養うために～

II. 研究の経過

- ◇ 4月17日 統一部会
- ◇ 5月1日 定期総会
- ◇ 6月5日 講演会
即興性を養うアクティビティの模擬授業
講 師：ALT委託業者
(株) ハートコーポレーション
八木橋 理恵 様
- ◇ 7月3日 小中連携英語情報交流会
- ◇ 7月29日 講演会
「指導と評価の一体化について～即興性を養う指導の充実及び小学校外国語・外国語活動とのつながり～」
講 師：国土館大学教授
五十嵐 浩子 先生
- ◇ 9月4日 授業実践例の分析と評価
- ◇ 10月2日 研究授業
授業者：野島 伸夫 主任教諭
関 真一朗 主任教諭
伊勢 直行 主任教諭
- ◇ 1月15日 定期テスト事例研究会
- ◇ 2月5日 研究発表会
- ◇ 3月5日 今年度のまとめと新年度に向けて

III. まとめ

7月29日講演会、10月2日研究授業を中心に、生徒の即興的な表現力を引き出す指導法について研究協議を重ね、段階的な指導と評価の在り方について理解を深めることができた。

(第二中学校主任教諭 野島 伸夫 記)

国分寺市

I. 研究主題

「話すこと（やり取り）の力を伸ばすための個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

II. 研究の経過

◇6月5日 研修会

講演：「話すこと（やり取り）の力を伸ばすための個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

講師：東海大学語学教育センター教授
長沼 君主 先生

◇8月5日 研修会

ワークショップ：「話すこと（やり取り）における指導と評価の一体化」

講師：東海大学語学教育センター教授
長沼 君主 先生

◇10月9日 研究授業

授業者：会田 裕子 主任教諭
（第一中学校）

単元名：NEW CROWN 1 Lesson 5
School Life in the U.S.A.

講師：国分寺市外国語アドバイザー
重松 靖 先生

◇1月15日 研修会

ワークショップ：令和7年度中学校英語教科書の特徴及びデジタル教科書の運用

講師：光村図書出版株式会社
編集部 櫻井 史明 様
株式会社三省堂
編集部 佐々木 史織 様

III. まとめ

本年度は「話すこと（やり取り）」におけるCAN-DO及びルーブリックの開発・作成に向けた研修を行うことができた。また、タブレットを用いた実践方法についても検討することができた。

（第一中学校主任教諭 会田 裕子 記）

国立市

I. 研究主題

「外国語・外国語活動における個別最適な学びや協働的な学びに向けた指導の工夫」

II. 研究の経過

◇公立小・中学校合同授業研究会

令和6年6月26日（水）

「Unit 5 Do you have a pen? (Let's Try! 2)」

対象：国立第一小学校第4学年2組33名

授業者：齋藤 杏奈 教諭

講師：玉川大学大学院教育学研究科
佐藤 久美子 名誉教授

◇公立小・中学校合同授業研究会

令和6年10月16日（水）

「Let's make Kunitachi City better!
—より良い国立市を作ろう—」

対象：国立第一中学校

第1～第3学年A組15名

授業者：小林 大地 主任教諭

講師：調布第八中学校

加藤 真由子 指導教諭

III. まとめ／成果と課題／その他 等

「成果」

個別最適な学びや協働的な学びに繋がるような、目的に応じた学習者用端末の活用方法について議論し実践した。ペア活動やグループ活動が充実した授業を行った。

「課題」

英語と日本語を適切なバランスで使用することや議論をさせる際に英語の視点を入れさせることなど、4技能を向上させるためのさらなる工夫が必要である。また、単なる知識の獲得ではなく、何が必要かを取捨選択できるような学習者を育てるための指導法を考える事が重要である。

（国立第一中学校教諭 那須 光幸 記）

福 生 市

I. 研究主題

「主体的に学び続ける児童・生徒の育成」
～義務教育9年間で育む資質・能力を共有した授業実践を通して～

II. 研究の経過

◇4月17日

役員選出

部会取組方向・取組内容決定

年間計画作成

◇5月8日

研究授業指導案検討

◇7月10日

研究授業Ⅰ：福生第五小学校

授業者：吉田 芽生 教諭

内 容：「福生市の施設・行事紹介」

講 師：東京都未来大学

非常勤講師 林 愛 先生

◇9月2日

研究授業指導案検討

◇10月2日

研究授業Ⅱ：福生第三中学校

授業者：岩尾 京子 教諭

内 容：「友人や家族を紹介」

講 師：十文字学園女子大学

教育人文学部児童教育学科

教授 林 宜之 先生

◇2月5日

研究報告会

III. 成果と課題

興味関心を引く課題設定、単元指導計画の工夫、効果的なICT活用により、主体的に学び続ける児童・生徒の育成について研究を深めた。一方、暗示的指導や形成的評価、自己調整の場を取り入れ、より一層粘り強く学習し続ける姿勢を身に付けさせたい。

(第二中学校主幹教諭 豊原 成一郎 記)

狛 江 市

I. 研究主題

「主体的・対話的な授業と評価の工夫」

II. 研究の経過

◇5月8日 英語部会

・研究主題

・組織作り

・研究授業者の決定

◇10月2日 研究授業・協議会

会 場：狛江市立狛江第一中学校

授業者：西村 景 主任教諭

単 元：Here We Go!

ENGLISH COURSE 3

Unit 6 “The Chorus Contest”

講 師：玉川大学

准教授 西村 秀之 先生

◇2月19日 研究報告会

III. まとめ

ICTを用いることで、生徒の学習履歴や生徒が発した英語の収集・可視化・分析を行うことができる。また、ICTを用いた授業では、生徒の「話す・書く」機会の増加、また授業者においても生徒に的確な助言をすることができると分かった。

(狛江第三中学校教諭 鈴木 潤 記)

東 大 和 市

I. 研究主題

「即興的なやり取りを通じたスピーキング力の育成 ―オンライン英会話等を効果的に活用して―」

II. 研究の経過

◇5月8日 教育研究会

内 容：研究主題の検討、活動計画の作成

◇7月24日 夏季研修会（講演）

内 容：中学生にとって効果的なオンライン英会話の教材について

講 師：GRASSグループ株式会社
岡田 海樹 様

◇10月2日 研究授業・研究協議

会 場：第二中学校

内 容：NEW CROWN 2 Lesson 4
GET Part 1 Retelling

授業者：武藤 なおみ 教諭

◇11月6日 教育研究会（講演）

内 容：新教科書の効果的な活用を目指して

講 師：三省堂営業部 内田 悠貴 様
編集部 中迫 佑治 様

III. 成果と課題

中学生にとって効果的なオンライン英会話の教材や活用方法について学ぶことができた。現状では、オンライン英会話の契約内容が中学校現場の実情に合っていない点も多い。各校の問題点を共有し、次年度に向けて要望等を伝えることができた。

研究授業では、スピーキング力を高めることを目指し、理解した教科書のストーリーを自分の言葉で伝える活動の一例を示した。

来年度に向けてデジタル教科書等の活用方法を具体的に学び、今後の学習活動の構想につなげることができた。

（第二中学校教諭 武藤 なおみ 記）

清 瀬 市

I. 研究主題

「言語の活用場面を意識した授業力の向上」

II. 研究の経過

◇4月17日 清瀬市教育研究会

会 場：清瀬中学校

内 容：研究主題の検討・決定
年間計画の確認
各校の情報交換

◇6月26日 清瀬市教育研究会

会 場：文化学園大学杉並高等学校

内 容：ダブルディプロマコース
授業視察・施設見学
カリキュラム等の説明

日本の文化学園大学杉並高等学校とカナダBC州政府認定のInternational Schoolの両方に在籍しながらBC州の教員による現地の授業を見学した。

◇10月23日 清瀬市教育研究会

会 場：TOKYO GLOBAL GATEWAY
GREEN SPRINGS（立川）

内 容：プログラム体験
施設見学

III. まとめ

6月26日高校授業見学では、授業の中で言語を場面や授業目的に応じて活用するスキルや自分の意見や考えを伝えるスキルが求められることなどを実際に見学することができた。

10月23日TGGプログラム体験では現実的な場面設定の中で、実践的な英語の必要性を体験した。これらの研修を通して活用場面を意識した授業展開を各校で計画していくことができた。

（清瀬第五中学校教諭 加藤 浩美 記）

東久留米市

I. 研究主題

「思考力・判断力・表現力を育成する指導・評価の工夫と授業の実践」

研究内容

- 1 適正な評価・評定について
- 2 生徒が主体的に学ぶ言語活動の工夫について

II. 研究の経過

◇5月8日 市授業改善研
(全体会・分科会)

研究主題決定・情報交換

◇6月12日 市授業改善研
(分科会)
指導案検討

◇7月10日 研究授業
東中学校 1年生
授業者：稲毛田 佑花 主任教諭
講師：元板橋第二中学校長
大沼 文雄 先生

◇9月13日 研究授業
西中学校 1年生
授業者：山形 理恵子 教諭
講師：元板橋第二中学校長
大沼 文雄 先生

◇2月5日 市授業改善研
研究報告

(大門中学校主任教諭 加藤 広太郎 記)

武蔵村山市

I. 研究主題

「外国語の見方・考え方をふまえた思考力・判断力・表現力を高めるための言語活動の在り方」

II. 研究の経過

◇4月17日 中教研第1回部会

- ・自己紹介
- ・研究主題設定
- ・組織編成
- ・年間計画

◇11月30日 中教研第2回部会

- ・研究授業・協議会

会 場：第三中学校

授業者：鹿野 さやか 教諭

海川 京子 教諭

田村 耕子 教諭

対 象：3年1・2組少人数

単 元：NEW HORIZON English Course 3
Unit 6 Beyond Borders

- ・講 義

テーマ：「思考力・判断力・表現力を育成する英語授業」

講 師：日野市立日野第一中学校
主任教諭 宮崎 太樹 先生

◇2月5日 中教研第3回部会

- ・実践報告会

テーマ：「外国語の見方・考え方をふまえた思考力・判断力・表現力を高めるための言語活動について」

(第三中学校教諭 石山 美紀 記)

多 摩 市

I. 研究主題

「評価に関する工夫」

II. 研究の経過

◇5月活動内容

活動方針の確認

◇6月活動内容

東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 鈴木 悠平 先生による講話
「中学校外国語における適正な評価の実
施に向けて」

◇11月活動内容

東京家政大学教授
太田 洋 先生による講話
「Here We Go! を使った言語活動を中心とした授業づくり—指導と評価を考
える」

III. まとめ／成果と課題／その他 等

まとめ

6月と11月の研究では「主体的に取り
組む態度」が話題となった。6月の部会
ではパフォーマンステストにおける生徒
のやりとりをもとに評価について考え
た。11月の部会では、自分の目標を達成
するためにどんな工夫が必要なのか生徒
自身に考えさせることの重要性について
考えを深めた。

成果と課題

具体的な事例を通し「主体的に取り組
む態度」の評価方法について研鑽してき
た。これまでの部会で学んだことをどの
ように授業に取り入れたのか、教員同士
で情報交換をする時間が取れなかったこ
とが課題である。

(諏訪中学校教諭 高橋 翔太 記)

稲 城 市

I. 研究主題

「学習意欲を高める指導と評価の工夫」

II. 研究の経過

◇4月10日 一斉部会

内 容：研究主題、年間活動計画の作成

◇5月8日 定例部会

内 容：評価方法・評価材料の検討

講 師：国士舘大学教授
五十嵐 浩子 先生

◇6月12日 定例部会

内 容：教材研究、研究授業指導案検討

◇8月27日 夏季研修会

場 所：Tokyo Global Gateway (立川市)

内 容：英語教育研修施設の見学

◇9月11日 研究授業・協議会

対 象：南山小学校 第4学年

内 容：ALTとのやりとり

小川 絢子 教諭

◇10月9日 研究授業・協議会

対 象：稲城第二中学校 第3学年

内 容：関係代名詞の目的格

新開 隆 教諭

◇11月13日 所属校研修

内 容：研究の成果と課題の検討

◇1月22日 定例部会

内 容：研究のまとめ、発表原稿準備

◇2月5日 稲教研研究全体発表会

場 所：稲城市中央文化センター

内 容：口頭発表および紙上発表

III. まとめ／成果と課題／その他 等

◇成果

小中連携を生かした指導と評価の改善
TGG等モチベーションを高める活動工夫

◇課題

学習意欲を高める指導と評価の分析
市全体でのTGGやオンライン授業の活用

(稲城第三中学校主任教諭 加藤 慎一 記)

羽 村 市

I. 研究主題

「英語を学び、英語で学ぶ喜びを感じながら楽しくコミュニケーションを図れる子供の育成。～身に付けた知識・技能を活用できるようにする授業や指導の工夫～」

II. 研究の経過

- ◇ 4月17日（水）一斉部会
会 場：羽村第一中学校
内 容：役員・研究主題・研究授業者決定
- ◇ 6月5日（水）第2回研修会
会 場：羽村第三中学校
内 容：指導案検討・研修予定
- ◇ 7月3日（水）第3回研修会・研究授業
会 場：羽村第三中学校
授業者：梅本 かおる 教諭
内 容：オンラインを使用した海外校との交流
- ◇ 8月28日（水）第4回研修会・講義
会 場：羽村第一中学校
内 容：指導案検討・講義・研修会報告
講 義：『インクルーシブ教育』
講 師：羽村市教育委員会指導主事
鹿沼 寛明 先生
- ◇ 10月9日（水）第5回研修会・研究授業
会 場：松林小学校
授業者：武藤 匠平 教諭 他ALT 6名
内 容：Unit8 『This is my town』
- ◇ 1月15日（水）第6回研修会・研究授業
会 場：羽村第二中学校
授業者：水村 宙夢 教諭
内 容：Unit7 『New Year Holidays in Japan』
講 師：東京家政大学教授
太田 洋 先生

III. 成果と課題

英語を楽しく学びながら、ICTを活用した授業の価値を位置付けること、協働的な学びの達成はできた。今後も小中の連携を図り、即興性のある表現の育成について研究していくことが課題である。

(羽村第一中学校副校長 網野 千恵子 記)

あ き る 野 市

I. 研究主題

「インプットからアウトプットへ」

～目的・場面・状況に応じて、生徒が自ら考え、判断し、表現する力を育む授業づくり～

II. 研究の経過

- ◇ 4月24日（水）市中教研一斉部会
会 場：東中学校
活動内容：1 三役決定
2 今年度の研究主題決定
3 一斉授業研究会の予定
- ◇ 6月5日（水）市中教研英語部会
会 場：御堂中学校
授 業 者：島田 峻 教諭
授業内容：Unit 2 Traveling Overseas
講 師：青梅市立第六中学校
校長 岩崎 浩示 先生
- ◇ 10月9日（水）小中合同研究会
会 場：増戸小学校
授 業 者：佐久間 周枝 教諭
授業内容：CROWN Unit 6, Let's try! 2
講 師：あきる野市立一の谷小学校
副校長 日吉 英智 先生
- ◇ 1月22日（水）市中教研英語部会
会 場：東中学校
授 業 者：森口 菜美 教諭
高原 泰男 教諭
串橋 美咲 教諭
授業内容：Let's Talk 7 ショッピング
講 師：国分寺市教育委員会
教育アドバイザー
重松 靖 先生

III. まとめ

英語部会や小中合同研究会で情報を交換、共有し、研究主題を深めた。

全学年で実施するESAT-Jを踏まえ、英語力向上に向けて、今後も、生徒が主体的に英語で表現する力を育む授業を研究していく。

(秋多中学校主幹教諭 和久利 幸子 記)

西 東 京 市

I. 研究主題

「コミュニケーション活動のさらなる充実
～主体的・対話的で深い学びを目指して」

II. 研究の経過

◇5月8日 第1回部会

会 場：保谷中学校

- 活動内容：1 組織の決定
2 研究テーマの決定
3 年間活動内容の決定

◇11月6日 第2回部会

①研究授業

会 場：田無第三中学校

授業者：飯沼 美千代 教諭（1学年）

単元名：NEW HORIZON

English Course 1 Unit 7

Foreign Artists in Japan

②研究協議会

③講演

「コミュニケーション活動のさらなる
充実～主体的・対話的で深い学びを
目指して」

講師：玉川大学文学部 教授
工藤 洋路 先生

④質疑応答

III. 成果と課題

部会では、各学校においてコミュニケーション活動の指導方法などの情報交換を行うとともに、各校のパフォーマンステストやスピーキングテストの評価を持ち寄り、情報交換を行った。

今後もコミュニケーション活動の工夫・改善を図り、生徒の表現する力を育む授業を研究していくことが課題である。

（青嵐中学校主任教諭 福島 美記子 記）

西 多 摩 郡

I. 研究主題

「生徒が自ら頑張ろうと思える評価を目指して」

II. 研究の経過

◇5月8日（水） 一斉部会

会 場：平井中学校

内 容：本年度の研究主題の決定
役員選出

◇11月6日（水） 一斉教科部会

会 場：奥多摩中学校

内 容：研究授業 協議会

授業者：奥多摩中学校 佐藤 修 教諭

講 師：Border Link 教材開発部
教務担当 鹿川 雅美 様

◇2月5日（水） 全体研修会

会 場：平井中学校

内 容：各教科研究報告会

III. 成果と課題

成果

- ・添削を通して生徒があきらめずに努力しようとする様子や、グループ活動においてたとえ間違えても相手に伝えようと頑張る姿勢が見られた。
- ・研究テーマである「生徒が自ら頑張ろうと思える評価を目指して」に照準を当てて「生徒たちが」主体的に積極的に活動する姿が見られた。

課題

- ・なぜ学ぶのか、後にどのようなことができるようになってほしいか、学ばせる意味は何かなどについての生徒への理解のさせ方が不十分だった。
- ・生徒とALTの先生が生徒と関わっていく中でスムーズにいかない状況が生まれることがあるが、この瞬間こそ生きた英語を学ぶチャンスである。生徒の実態に合わせたレベルでのコミュニケーションを積極的に行っていく必要がある。
- ・添削する際に具体的な評価規準を生徒に明示する必要があった。

（瑞穂第二中学校教諭 川口 大樹 記）

大 島 町

I. 研究主題

「小中学校の連携～7年間の教育を見越して～」

II. 研究の経過

- ◇4月17日 研究協議会
会 場：第一中学校
活動内容：令和6年度活動計画の作成
- ◇5月22日 研究
会 場：第三中学校
授 業 者：師岡 利光 主任教諭
活動内容：研究授業
(小中連携を考えた指導について)
- ◇10月16日 研究協議会
会 場：つばき小学校
活動内容：研究資料の共有
- ◇11月27日 研究協議会
会 場：つばき小学校
活動内容：研究のまとめ
- ◇1月15日 研究授業
会 場：つばき小学校
授 業 者：藤田 竜 教諭
授業内容：外国語
Crown Jr. 5
Unit 3 Lesson 6 It is in Fukui.

III. まとめ

小中連携を考えた授業計画をどのように立てていくべきか授業実践や研究授業を通して深めることができた。

今後も、各校での取り組みについての共有を図り、小中連携の取り組みを続け、児童・生徒の英語力向上に向けた取組をしていく。

(第二中学校教諭 新垣 智也 記)

八 丈 町

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を活用できる児童・生徒の育成～効果的な言語材料導入の工夫～」

II. 研究の経過

- ◇5月8日 第1回部会
研究主題、活動計画、組織づくり、研究授業担当地区決め、講師招聘検討
- ◇11月13日 第2回部会
 - ①研究授業
会 場：三根小学校
対 象：第6学年
授業者：森 和哲 主任教諭
David Kim ALT
 - ②協議
講 師：東京学芸大学 教授
柏谷 恭子 先生
- ◇1月15日 第3回部会
 - ①研究授業
会 場：大賀郷中学校
対 象：第1学年
授業者：辻 賢哲 主任教諭
 - ②協議
 - ③年度末反省・まとめ
 - ④情報交換

III. まとめ／成果と課題／その他 等

- ◇小中合同での研修部会を組織して研修を実施した。
- ◇一斉テストとして英検IBAを各校で実施し、情報を共有した。

(大賀郷中学校主任教諭 辻 賢哲 記)

**令和6年度
中英研事業報告**

- ㊦ 対面開催 ㊧ オンライン開催
- 1 6月3日㊦㊧ 役員会
 - ・役員組織等の確認
 - ・年間事業計画の検討
 - ・中英研定期総会に向けて 他
 - 2 6月6日㊦㊧ 定期総会

於：葛飾区立常盤中学校

 - ・令和5年度事業報告・決算報告
 - ・令和5年度会計監査報告
 - ・新役員の承認
 - ・6年度行動目標の承認
 - ・6年度事業計画・予算の承認

記念講演：東京都におけるグローバル
人材育成への取組について

講師：教育庁グローバル人材育成部
国際交流教育課国際交流教育
担当指導主事 浅井 剛 様
国際教育事業担当指導主事
内村 直人 様
 - 3 7月31日、8月5日㊦ 研究部
夏季ワークショップ
31日 於：大田区立志茂田中学校
5日 於：杉並区立泉南中学校
 - 4 8月20日㊦ 調査部
夏季ワークショップ
於：都立桜修館中等教育学校
 - 5 8月22日㊦ プロジェクトチーム部
夏季ワークショップ
於：墨田区立吾嬬立花中学校
 - 6 8月26日㊦ 事業部
夏季ワークショップ
於：東京都立豊多摩高等学校
 - 7 9月17日㊧ 役員会
 - ・英語学芸大会の運営について 他
 - 8 10月1日 出版部
「都中英研だより」第78号 発行
 - 9 10月7日～11月8日㊧ 事業部
第77回東京都中学校英語学芸大会
(オンライン開催の部)
 - 10 10月31日㊧
第63回大都市公立中学校英語教育研究会
連絡協議会北九州大会
 - 11 11月8日㊦㊧
第48回関東甲信地区中学校英語教育研
究協議会千葉大会
 - 12 11月17日㊦ 事業部
第39回授業力アップ研修会
於：都立豊多摩高等学校
 - 13 12月11日㊧ 役員会
 - ・各部の事業報告 他
 - 14 12月26日㊦ 事業部
第77回東京都中学校英語学芸大会
(集合開催の部)
於：かめありリリオホール
 - 15 1月21日㊦ 事業部
第40回授業力アップ研修会
於：千代田区立九段中等教育学校
 - 16 1月31日から3月31日まで㊧
令和6年度東京都教職員研修センター
教育課題研究発表会展示発表
 - 17 2月13日㊦ プロジェクトチーム部
研究授業・冬季研修会
於：江戸川区立二之江中学校
 - 18 2月21日㊦ 研究部
公開授業・研究発表会
於：日野市立日野第一中学校
 - 19 2月26日㊦㊧ 役員会
 - ・令和6年度の活動のまとめ
 - ・令和7年度事業計画について 他
 - 20 3月1日 出版部
「中英研会報」第83号 発行

(文責 総務部長 板垣 繁)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
第2条 本会の事務所は会長指定の経理部長在籍校の所在地に置く。
第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目的とする。
第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
3. 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
4. 各種英語教育団体との連絡
5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
2. 副会長若干名
3. 部長各部ごと1名
4. 副部長各部ごと若干名
5. 会計監査2～3名
6. 幹事各区、市ごとに1名
第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を招集し、会務を執行する。
4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。
6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。

第9条 役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。

1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

第11条 会議は次のとおりとする。

1. 総 会

毎年1回会長が招集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。

2. 役員会

会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。

3. 幹事会

役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。

4. 部 会

[総務部] 庶務・会計・渉外及び他部に属さない事項の処理

[事業部] 会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進

[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施

[研究部] 語彙指導などの研究活動とその普及のための広報活動、研究発表会および公開授業の開催

[出版部] 中英研だより・会報などの発行

[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

第5章 会 計

第12条 本会の会費は東京都中学校教育研究会よりの交付金をもってあてる。

第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。

第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第15条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。

第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。

第18条 細則は幹事会で定めることができる。

※改定 第5条2、3及び第11条4は平成17年5月19日より実施する。

※第2条及び第16条は平成30年5月10日より実施する。

令和 6 年度 東京都中学校英語教育研究会名簿

役 名	氏 名	所 属 校
会 長	平 岡 栄 一	葛 飾 区 立 常 盤 中 学 校
副 会 長	板 垣 繁	葛 飾 区 立 上 平 井 中 学 校
〃	難 波 浩 明	足 立 区 立 加 賀 中 学 校
〃	今 本 由 美 子	立 川 市 立 立 川 第 三 中 学 校
〃	佐 藤 順 一	墨 田 区 立 吾 孀 立 花 中 学 校
〃	柳 歆 子	大 田 区 立 雪 谷 中 学 校
〃	大 森 博	八 王 子 市 立 櫛 田 中 学 校
〃	稲 葉 高 広	町 田 市 立 成 瀬 台 中 学 校
総 務 部 長	板 垣 繁	葛 飾 区 立 上 平 井 中 学 校
経 理 部 長	難 波 浩 明	足 立 区 立 加 賀 中 学 校
経 理 部 長 補 佐	赤 田 洋 一	江 東 区 立 第 二 砂 町 中 学 校
副 部 長	星 正 行	葛 飾 区 立 新 宿 中 学 校
〃	小 林 和 代	葛 飾 区 立 新 宿 中 学 校
部 員	米 岡 利 昌	葛 飾 区 立 水 元 中 学 校
〃	池 田 美 咲	葛 飾 区 立 新 宿 中 学 校
〃	平 入 聡	葛 飾 区 立 金 町 中 学 校
〃	高 山 翔	葛 飾 区 立 金 町 中 学 校
調 査 部 担 当 副 会 長	大 森 博	八 王 子 市 立 櫛 田 中 学 校
調 査 部 長	荒 川 高 広	東 京 都 立 桜 修 館 中 等 教 育 学 校
副 部 長	星 雄 介	八 王 子 市 立 館 小 中 学 校
〃	高 瀬 ひ と み	東 京 都 立 白 鷗 高 等 学 校 ・ 附 属 中 学 校
〃	加 藤 真 由 子	調 布 市 立 第 八 中 学 校
〃	宮 崎 太 樹	日 野 市 立 日 野 第 一 中 学 校
部 員	相 澤 雄 介	東 大 和 市 立 第 一 中 学 校
〃	新 船 美 佳	八 王 子 市 立 ひ よ ど り 山 中 学 校
〃	飯 島 美 樹	江 東 区 立 深 川 第 二 中 学 校
〃	石 田 千 尋	品 川 区 立 八 潮 学 園
〃	遠 藤 康 子	練 馬 区 立 貫 井 中 学 校
〃	大 木 田 陽 子	江 東 区 立 辰 巳 中 学 校
〃	大 澤 陽 子	国 立 市 立 国 立 第 二 中 学 校
〃	榎 野 真 弓	中 野 区 立 中 野 東 中 学 校
〃	久 保 田 航	墨 田 区 立 墨 田 中 学 校
〃	黄 俐 嘉	千 代 田 区 立 九 段 中 等 教 育 学 校
〃	小 山 寛 孝	町 田 市 立 南 中 学 校
〃	佐 藤 航	東 大 和 市 立 第 五 中 学 校

役名	氏名	所属校
部員	白井靖子	江東区立深川第八中学校
〃	柴野泰行	江東区立亀戸中学校
〃	高栖菜々子	八王子市立第二中学校
〃	丹生幸宣	西東京市立田無第四中学校
〃	永井剛	武蔵野市立第一中学校
〃	中村大樹	練馬区立石神井西中学校
〃	成瀬未緒	大田区立雪谷中学校
〃	幡野洋子	日野市立大坂上中学校
〃	樋口はる菜	羽村市立羽村第一中学校
〃	藤本真弓美	墨田区立寺島中学校
〃	本田大輔	北区立飛鳥中学校
〃	松村祐輔	江戸川区立松江第五中学校
〃	松本将	足立区立江南中学校
〃	松本緑	葛飾区立大道中学校
〃	丸山敬子	目黒区立第八中学校
〃	持田朗生	八王子市立第六中学校
〃	柳澤和恵	西東京市立田無第二中学校
〃	吉田恵	東京都立白鷗高等学校・附属中学校
〃	吉原脩平	西東京市立田無第一中学校
〃	渡邊愛沙美	日野市立七生中学校
事業部長	稲葉高広	町田市立成瀬台中学校
副部長	前川卓哉	国分寺市立第五中学校
〃	島村雄次郎	立川市立第七小学校
〃	小山千景	江東区立深川第一中学校
〃	畠山芽含	足立区立鹿浜未来小学校
〃	佐々木昭央	文京区立茗台中学校
〃	赤田洋一	江東区立第二砂町中学校
〃	大屋剛	練馬区立旭丘中学校
〃	亀田洋斉	東京都立豊多摩高等学校
〃	黄俐嘉	千代田区立九段中等教育学校
部員	川越智子	北区立飛鳥中学校
〃	小川史哲	八王子市立別所中学校
〃	田島大介	葛飾区立奥戸中学校
〃	舛谷明沙季	町田市立鶴川中学校
〃	等々力正伸	葛飾区立常盤中学校
〃	佐藤紀代美	葛飾区立常盤中学校

役名	氏名	所属校
部員	遠藤康子	練馬区立貫井中学校
〃	松本花鈴	東京都立杉並高等学校
研究部担当副会長	板垣繁	葛飾区立上平井中学校
研究部長	溪内明	文京区立本郷台中中学校
副部長	高杉達也	国立筑波大学附属中学校
〃	橋本晋作	渋谷区立松濤中学校
〃	森沢俊彦	日野市立日野第三中学校
〃	島田拓	足立区立入谷南中学校
部員	原田博子	文京区立第十中学校
〃	中川智子	大田区立志茂田中学校
〃	水嶋諒	江東区立深川第五中学校
〃	松野麻里恵	港区立三田中学校
〃	大島良一	江戸川区立篠崎第二中学校
〃	多田翔	江東区立第三砂町中学校
〃	福島恵子	清瀬市立清瀬第三中学校
〃	一ノ瀬麻子	港区立六本木中学校
〃	岡大佑	東京都立小石川中等教育学校
〃	長谷川眞司	小平市立小平第三中学校
〃	五井沙織	板橋区立高島第一中学校
〃	小沼櫻	府中市立府中第六中学校
〃	斎藤開	佼成学園女子中学校・高等学校
〃	小澤美沙姫	杉並区立泉南中学校
〃	瀧本廣樹	杉並区立富士見丘中学校
〃	竹元智子	葛飾区立桜道中学校
〃	小林竜也	足立区立青井中学校
〃	長嶋昌子	江戸川区立南葛西第二中学校
担当副会長 兼出版部長	今本由美子	立川市立立川第三中学校
副部長	溝口千里	板橋区立志村第五中学校
〃	兼子容子	葛飾区立四ツ木中学校
〃	鈴木訓文	葛飾区立小岩第四中学校
〃	當麻忠幸	西東京市立明保中学校
部員	相澤史彦	小平市立小平第二中学校
〃	五木田修	足立区立第九中学校
〃	中村哲	板橋区立西台中中学校
〃	梅田一行	練馬区立大泉第二中学校
〃	椿恭子	目黒区立第一中学校

役名	氏名	所属校
部員	福田 貴音	豊島区立西池袋中学校
〃	鈴木 咲子	清瀬市立清瀬第三中学校
〃	柳 絵未	千代田区立九段中等教育学校
〃	辻 賢哲	八丈町立大賀郷中学校
〃	深山 朋子	新宿区立新宿西戸山中学校
〃	祖母井 千秋	江東区立大島西中学校
〃	浅田 紗織	青梅市立西中学校
〃	和田 圭史	多摩市立落合中学校
担当副会長兼PT部長	佐藤 順一	墨田区立吾嬬立花中学校
副部長	佐藤 善明	西東京市立ひばりが丘中学校
部員	堀 恭子	江東区立大島中学校
〃	原田 博子	文京区立第十中学校
〃	上尾 栄美子	足立区立第四中学校
〃	角田 幸彦	足立区立蒲原中学校
〃	渡邊 英哲	町田市立つくし野中学校
〃	飯沼 美千代	西東京市立田無第三中学校
〃	田中 佳奈	にしみたか学園三鷹市立第二中学校
〃	本田 耕大	杉並区立阿佐ヶ谷中学校
〃	伊勢 涼	葛飾区立双葉中学校
〃	渡邊 良亮	町田市立鶴川第二中学校
〃	村山 幸広	江戸川区立二之江中学校
〃	生垣 佳子	墨田区立吾嬬第二中学校
〃	小林 順子	墨田区立吾嬬立花中学校
〃	鈴木 潤	狛江市立狛江第三中学校
小中連携	島村 雄次郎	立川市立第七小学校
〃	畠山 芽含	足立区立鹿浜未来小学校
〃	柳 歆子	大田区立雪谷中学校
幹事・研究部	宮本 猛司	足立区立第一中学校
幹事・出版部	五木田 修	足立区立第九中学校
幹事・総務部	渡邊 映二	大田区立大森第一中学校
会計監査	市川 拓治	足立区立第十中学校
〃	三輪 政継	足立区立谷中中学校

あ と が き

ここに、令和6年度「中英研会報」第83号をお届けいたします。

本誌の発行に際しましては、玉川大学 教授 工藤 洋路 先生をはじめ、多くのご執筆者の皆様にご協力いただきましたことに、心から御礼申し上げます。

また「地区活動状況」ページの作成にあたりましては、各地区幹事の先生方には、ご多用の中、原稿の提出にご協力いただきありがとうございますございました。

「中英研だより」は、昨年度、紙面での発行を止め、デジタル版のみの発行と変更をいたしました。各地区幹事の皆さまには、地区内での周知、配布等でご協力をいただき、ありがとうございます。「中英研会報」については、各校1冊ではありますが、今年度も引き続き、冊子をお届けさせていただきます。都中英研HPからも、過去の会報も含めご覧いただけますので、そちらもどうぞご活用ください。本誌が都内各中学校の英語科教員の情報共有の場となり、英語科教員相互の連携、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のお役に立てればと願っております。

最後になりましたが、本誌の発行にあたりご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、会員の皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

(都中英研出版部長 今本 由美子)

都中英研 HP・Facebook の URL と QR コード

都中英研 HP では、各部の活動や研修会等のお知らせをご覧いただけます。本誌「都中英研会報」の閲覧も可能です。また、Facebook では、利用者間相互のコミュニケーションも可能です。ぜひご活用ください。

<http://www.chueiken-tokyo.org/>

<https://www.facebook.com/chueiken.tokyo/>



都中英研 HP



Facebook

※Facebookはメタプラットフォーム社の登録商標です。

都中英研会報 第83号

令和7年3月1日印刷
令和7年3月1日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 平岡 栄一

発行所 東京都中学校英語教育研究会
東京都葛飾区立常盤中学校
東京都葛飾区金町2-11-1
TEL03-3607-1122

印刷所 (株) オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木2-6-5
TEL(03) 5741-3146